

STUDY ABROAD

2026

SAの手引き
英語コース



DOSHISHA UNIVERSITY
FACULTY OF GLOBAL
COMMUNICATIONS
[ENGLISH COURSE]





遠い世界の、新しい出会いが、 あなたの未来を変える。

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部英語コースでは、
国境や文化圏を越えたコミュニケーションを体得するために
STUDY ABROAD (海外留学) を必修としています。

1年次では、STUDY ABROADの準備をしながらコミュニケーション理論、
世界での英語使用について学び、コミュニケーション能力を伸ばします。
そして2年次は、いよいよSTUDY ABROADへの旅立ち！
未知の世界があなたを待っています！



CONTENTS

STUDY ABROAD 準備から帰国まで	3
出発までの流れ	4
SAに必要な検定試験	6
大学紹介	7
アメリカ	
・ The University of Utah	8
・ University of Montana	10
・ University of California, Riverside	12
・ University of California, Davis	14
・ Arizona State University	16
カナダ	
・ Vancouver Island University	18
・ University of Guelph	20
・ Brock University	22
イギリス	
・ University of Southampton	24
・ University of Sussex	26
オーストラリア	
・ The University of Newcastle	28
・ Deakin University	30
ニュージーランド	
・ Victoria University of Wellington	32
SAを迎える前に	34
・ バスポートについて	38
・ SAに関する内規	38
・ 誓約書	39



STUDY ABROAD 準備から帰国まで

年間スケジュール		語学試験 (受験必須)
4月	オリエンテーション	TOEFL ITP®テスト 4/18(土)
5月	SA派遣先の国のリサーチ	第1回 SA先希望調査
6月	SA全体説明会	
7月	個別相談	TOEFL ITP®テスト 7/4(土)
8月		第2回 SA先希望調査
9月	成績確定後、選考	SA先決定
10月	留学申請書類作成 渡航に係る各種手続き	
11月		
12月	渡航前準備 父母相談会	
1月		
2月		SA出発
3月		
12月~ 翌年4月上旬	帰国報告、単位認定	TOEIC® Listening & Reading Test TOEFL ITP®テスト 3月下旬~4月上旬 に実施予定

※出発及び帰国の時期はSA先により異なるため、各大学紹介ページを参照してください。

出発までの流れ

皆さんが同志社大学グローバル・コミュニケーション学部に入学をしたその時点から、STUDY ABROAD (SA) に向けた準備は始まります。1年次はSA先を決定し、SAに備える大切な準備期間です。出発までの流れは次のとおりです。



2026
春学期

2026年4月～9月まで

SA先決定までのプロセス

Threshold Seminar 1

英語コースではSAへの準備クラスとしてThreshold Seminar1と2が設置されています。Threshold Seminar1では、SAを含めた4年間の学習計画を立てたり、それぞれの国の大学の概要を学んだり、異文化理解とは何かについて考えたりしながら、志望大学を決定していきます。

英語スキル系科目群

Communicative Performance 1
Progress in Reading 1
Progress in Writing 1

英語の「読む・書く・聞く・話す」という4技能を向上させて、SAに必要な英語力を身につけます。

Preparation for TOEFL

SA先の各大学ではESL、アカデミック・コースともに、TOEFL®テスト、IELTSなどの検定試験による受け入れ基準を設けています。このクラスでは、特にTOEFL®テストで高得点を取得することを目指します。

専門講義系科目群

Introduction to English-Speaking Culturesでは、英語圏の文化と英語の多様性を英語による講義を通して学びます。次年度のSAに向け、世界の英語と文化に関する知識を得るとともに、ノート・テイキングなどのアカデミック・スキルを身につけるねらいもあります。

Threshold Seminar 1 で取り扱う内容(予定)

- オリエンテーション：4年間の学びについて、SAに向けた準備の流れについて
- e-learning教材、自学自習室、ラーニング・ commonsの活用法
- SAの概要の説明、4年間のカリキュラムについて
- 図書館の活用法
- SA派遣先の国のリサーチ発表
- SAの学習設計 ①：SAの目標、Application Form、Statement of Purposeの書き方
②：各大学のCourse Catalogueを調べる
③：SAの目標と学習計画
- SA後の学び：4年間の学習設計と卒業後の進路について
- Academic Skills ①：Plagiarismを避けてエッセイを作成する、AIとの付き合い方について
②：異文化コミュニケーション
③：ノートテイキング
- SA先大学志望校決定のための個別相談

◎SA先は、主として第2回TOEFL ITP®テストのスコアと1年次春学期の成績評価 (GPA)、及び第2回SA先希望調査から総合的に判断し、9月に最終決定されます。行きたい国の大学についてわからないことがあれば、オフィス・アワーなどを利用して担当の先生と相談してください。

STUDY ABROAD 先決定

2026
秋学期

2026年9月～2027年3月まで

SA先決定後の準備

Threshold Seminar 2

SAについての具体的な準備を進めながら、SA先の国の文化や社会に関するリサーチ活動を行い、その結果について英語でプレゼンテーションをします。SA先での大学生活や日常生活を円滑に営むために必要な知識を身に付け、異文化理解へと結び付けていくのが目的です。

英語スキル系科目群

Communicative Performance 2
Progress in Reading 2
Progress in Writing 2

英語の4技能の更なる向上を図るとともに、SAに必要なアカデミック・スキルを身につけます。

Preparation for Academic Study

SA先大学で履修するアカデミック科目の準備として、社会、言語、文化それぞれの領域におけるグローバル・コミュニケーション学の基礎を学びながら、文献リサーチ、批判的思考、論理的議論の展開法、論文の書き方などを習得します。

専門講義系科目群

Introduction to Japanese Cultureでは、日本研究に携わってきた教員による英語での講義を通して、日本の社会や伝統・現代文化についての知識を身につけ、理解を深めます。SA先の国々で、日本について英語を使って発信できる能力を養うことを目指します。

Threshold Seminar 2 で取り扱う内容(予定)

- オリエンテーション：Threshold Seminar 2 について
- SA準備開始：今後のSA手続スケジュール等について
- 国別・出願書類、査証申請書類についての説明と作成
- SA先の国の社会と文化
- 日本文化の紹介
- Intercultural Communication (講義)
- SA先での日常生活
- 渡航前全体オリエンテーション
- 危機管理ガイダンス ①：健康管理
②：メンタル・ヘルス
③：海外で危険に遭遇したときの対処法、保険の活用法など
- 渡航前国別オリエンテーション

◎SA先が決定した後は、主としてThreshold Seminar 2のクラスでの学習活動を通して、SAの準備をします。SA先の国の文化や異文化理解について学ぶとともに、現地での危機管理やメンタルヘルスなど、SA期間中の生活に必要な知識を習得します。

STUDY ABROAD 出発

SAに必要な 検定試験

SA先の各大学では受け入れに際して、検定試験の基準点を設けています。検定試験には次のようなものがあります。



TOEFL ITP®テスト Test of English as a Foreign Language, Institutional Testing Program

TOEFL ITP®テスト(ITPテスト)はTOEFL®テスト作成元であるEducational Testing Service(ETS)が提供する団体向けテストプログラムです。同志社大学では年8回、実施されています。ITPテストのスコアには公的な効力はありませんが、多くの大学ではESL(English as a Second Language)に入学する場合に限り、これを受け入れの基準として認めています。本学部では、SA先を決定するにあたって、**7月に行われるITPテストのスコアをSA先決定の判断材料としており、全員の受験を必須としています(学部が一括して申し込み)。**

■同志社大学実施のTOEFL ITP®テストの詳細はこちら
https://international.doshisha.ac.jp/oia/toefl_ielts_toeic/toefl_itp.html



TOEFL iBT®テスト Test of English as a Foreign Language, Internet-Based Test

TOEFL iBT®テスト(iBTテスト)はインターネットによる試験で、この試験で獲得したスコアは英語能力を証明するものとして、英語圏の多くの大学や大学院で認められています。「読む」「聞く」「話す」「書く」の4セクションで構成され、テストセンターで1人1台コンピュータが割り当てられ、全セクションをコンピュータ上で受験します。テストの所要時間は約1.5時間です。

SA先において、アカデミック・コースから入学する場合には、受け入れの条件としてこのiBTテストでの基準点以上のスコアを要求されるケースがあり、SA先にApplicationを送る時期までに、この試験を受験する必要があります。また、ESLから始める予定の人も、なるべく早くアカデミックへ移行するのに役立つ場合があります。**英語コースではSA前に1回は受験しておくことを推奨しています。**

■テスト全般に関する(オンライン申込を含む)詳細はこちら
Educational Testing Service(ETS)
https://www.toefl-ibt.jp/test_takers/



TOEIC及びTOEFLはエデュケーション・テスト・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたはその承認を得たものではありません。

IELTS International English Language Testing System

英語圏への留学を目指すにあたって、TOEFL®テストと同じくらい重要なのがIELTSです。IELTSは海外留学や研修のために英語力を証明する際に使うことができるテストです。IELTSには2つのテスト形式がありますが、大学や大学院への留学を目指す場合は「アカデミック・モジュール」を受験するのが一般的です。

試験の結果はBandで表示され、総合力の他、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキングの分野別にBand1~9の得点域で表示されます。英語圏の高等教育機関への入学許可を受けるには、通常5.5~7.0のグレードが必要となります。

イギリスへのSAを希望する場合は、英国ビザ申請のために必要なIELTS for UK Visas and Immigration(Academic)を必ず受験してください。オーストラリアへのSAを希望する場合は、通常のIELTS(Academic)を必ず受験してください。また、5月に説明会を実施しますので、参加してください。

■テスト全般に関する詳細はこちら
<https://www.eiken.or.jp/ielts/>



■IELTS for UK Visas and Immigrationの詳細はこちら
<https://www.eiken.or.jp/ielts/ukvi/>



大学紹介



イギリス >> P24

- 9 University of Southampton
- 10 University of Sussex

カナダ >> P18

- 6 Vancouver Island University
- 7 University of Guelph
- 8 Brock University



オーストラリア >> P28

- 11 The University of Newcastle
- 12 Deakin University

アメリカ >> P8

- 1 The University of Utah
- 2 University of Montana
- 3 University of California, Riverside
- 4 University of California, Davis
- 5 Arizona State University

ニュージーランド >> P32

- 13 Victoria University of Wellington



アメリカ

カナダ

イギリス

オーストラリア

ニュージーランド

The University of Utah



基本情報

University of Utahは1850年に設立されました。所在地はUtah州の州都Salt Lake Cityです。北東にはロッキー山脈、南西にはアリゾナに続く砂漠の大地が広がります。西の方角にGreat Salt Lake（大ソルトレーク湖）が見渡せる小高い丘の上に建っています。学生総数は約30,000人の総合大学で、約2,000人の留学生が世界中から集まっています。学士課程には70以上の専攻があり、ビジネス、コンピュータサイエンス、政治学、生物学で高い評価を得ています。Salt Lake Cityはモルモン教徒が開拓したことで有名ですが、University of Utahは宗教的には中立の州立大学です。

URL <https://www.utah.edu/>
(course catalog: <https://catalog.utah.edu/>)



所在地	Salt Lake City, Utah 84112, USA
創立年	1850年
運営	公立
参考学費	ELI+Academic+Academic(4,840+14,700+14,700) : \$34,240
滞在方法	ホームステイ

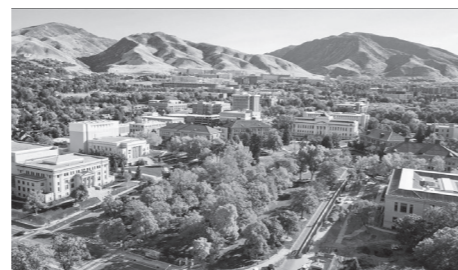


レベル別の履修形態

- ケース1 (Versant Test 58以上)
3月上旬～5月中旬: ELI Courses
5月中旬～7月中旬: ELI Courses
8月下旬～12月中旬: Academic
- ケース2 (Versant Test 66以上)
3月上旬～5月中旬: ELI Courses
5月中旬～8月上旬: Academic
8月下旬～12月中旬: Academic

空港からのアクセス

最寄りの空港はSalt Lake City空港です。日本からはLos Angeles経由、もしくはSan Francisco経由で約10時間程度、それぞれの乗り換え空港からSalt Lake City空港までは約1時間半かかります。空港から大学まではシャトルバスまたはTRAX（路面電車）で約30～40分程度かかります。



現地スタッフからのメッセージ

The English Language Institute and the University of Utah are happy to welcome you to our program. Living in a different culture is a life changing experience. We know that you will find Salt Lake City to be a beautiful, friendly and safe place to live and study. As Mark Twain said, 'Twenty years from now you will be more disappointed by the things you didn't do than by the ones you did do. So catch the trade winds in your sails and ... sail away from the safe harbor. Explore. Dream. Discover.' Looking forward to helping you explore, dream and discover in Utah.

George Plautz



素敵な街、あたたかい人々、素晴らしい教育環境

室田 実樹さん



きっとあなたもユタが大好きになる!

ユタ州は、ロッキー山脈の西側に位置する、日本の本州ほどの面積を有する広大な州です。特に冬は上級の雪質を誇る、全米屈指のスキーリゾートとして知られており、2002年に冬季オリンピックが開催されました。そんなユタ州という留学先は私の第四希望地でした。ところが留学直後から私を虜にさせたユタの魅力をお話しします。ユタという州に対して「田舎」、「山」というイメージを持っている人も多いかも知れませんが、きらびやかな都心には大型モールや素敵なレストランが多く、「都会」という名がふさわしい一面もあります。もちろん自然も近く、私自身ハイキングを楽しみました。私がユタ州を好きになった理由の一つは、都会と、自然をどちらも楽しめる場所ということです。また、ユタの人々の温かさ、親しみやすさも大好きな理由の一つです。誰に対しても挨拶、笑顔、ちょっとした会話をする慣習に、自分は受け入れられている、歓迎されていると感じ、「アメリカ人ではない自分」と自分自身でどこか差別化していた気持ちがなくなり、自信が持てるようになりました。さらに、5月頃にユタ大学で授業を受け始めたとき、私は本当にユタが大好きになりました。教授と学生の距離が近く、誰もが発言できる環境がそこ

にあり、政治、環境、法律など豊富な知識を含んだ意見に対して、クラス全体が敬意を持って発言に耳を傾ける姿勢を目の当たりにし、ここに来てここで勉強できてよかったと思いましたが、とても魅力的に感じました。しかし、内気な私は授業で何か言いたいことがあっても、「良い」ことが言えないかも、質問されている内容と私の発言が合っていないかもなどの不安要素でなかなか挙手できませんでした。しかし、一度意見を言ってみると、思っていたより私の意見を受け入れられていることに気づきました。それ以来、私は自分の意見をより積極的に表現するようになりました。留学に関して不安なことも多いと思いますが、思っている以上にあたたかく受け入れてくれます。私を大きく成長させてくれたユタで、みなさんもぜひ留学してみたいと思います。



キャンパス

Salt Lake Cityの街の北に位置するキャンパスでは、図書館、チューデントユニオン、メディカルセンター、ジムなど、勉学と毎日の生活に必要な設備が完備しています。広大なキャンパスにはフリーバスが走っています。また、キャンパスと町の中心部を結ぶ路面電車も走っています。8月以降からはキャンパス内の寮に住むオプションもありますが、到着の3月から8月まではホームステイしかできません。その場合、ホームステイの場所にもよりますが、こうした路面電車を始めとする交通手段は非常に便利です。



Salt Lake Cityについて

約100万人規模（郊外を入れると200万人）の大都市です。2002年に冬季オリンピックの開催地であったこともあり、国際的なイベントが今でも実施されています。町の中心から1時間ほどで世界的に有名なスキー場も行くことができます。モルモン教徒が開拓した歴史は興味深く、町全体がこうした歴史と文化、そして、国際色の両側面を兼ね備えています。ちなみに日本からは、明治4年に岩倉具視使節団が公式訪問をしています。



University of Montana



URL <https://umontana.edu/>



所在地	32 Campus Drive, Missoula, MT 59812, USA
創立年	1893年
運営	公立
参考学費	(ELI+ELI)+Academic(9,466+25,500) : \$34,966
滞在方法	寮

基本情報

University of Montana は1893年に設立されました。ロッキー山脈の麓の町 Missoulaの中心的存在であり、81ヘクタール（東京ドーム17個分の広さ）の敷地に広がるキャンパスは広々として美しく、とても印象的です。学部、修士課程、博士課程を含む合計170以上のプログラムを提供する州立総合大学で、約10,000人の学生が勉強しています。留学生は約400人で約70の国々から集まります。土地柄、環境学、森林学、自然資源学などの分野で全米に知られていると同時に、コミュニケーション、ジャーナリズム、英語学でも高く評価されています。特にジャーナリズムの分野からは、多数のピューリッツァー賞受賞者を輩出しています。



University of Montanaでの留学生活

内園 一輝さん



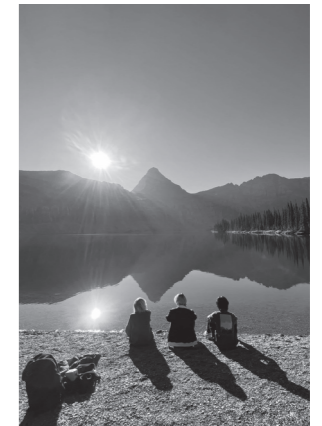
どこの国へ留学するにしても、その国の文化を知っておこう。

私は、英語を本格的に勉強したのは受験生になってからということもあり、スピーキングとリスニングに関しては周りの友人よりも若干劣っていたかもしれませんが、そのため現地に到着した時、本場の英語のスピードやテンポには圧倒されました。次第に慣れていったので過度な心配は不要ですが、皆さんはスピーキングの練習をしっかりとしておくことをお勧めします。英語をある程度話せないと十分なコミュニケーションは取れないので、充実した留学生活を送るため、今のうちから練習しておきましょう！

University of Montanaでの留学生活は、基本的に大学敷地内にある寮で生活します。そのため、大学でできた友達と多くの時間を過ごすことが出来ます。私の場合、ルームメイトが現地の学生だったので、英会話の上達にとても役立ちました。授業に関しては、ESL（語学学校）の授業は基本的な英語力を伸ばすのうってつけですが、現地学生と関わることができないというデメリットがあります。一方、アカデミックの授業は、かなりハイレベルで、予習を怠ると、教授の話している内容が理解できず、ディスカッション時には置物状態になってしまいます！しっかり予習・復習をしましょう。楽しい授業もたくさんあります。私の

履修した授業の1つでは、ロックンロールの歴史を扱っており、様々なアメリカのロックバンドや歌手について知ることができました。音楽が好きな人はぜひ履修することをお勧めします。

モンタナに留学する上で最大のメリットは、治安の良さと自然の豊かさです。治安は日本と同じくらい良いと感じました（財布を落とした際、親切な人が届けてくれて無事返ってきたという人もいます）。モンタナに住んでいる人は明るく、気さくな人が多い印象です。キャンパスの中ではリスをよく見かけますが、シカやクマが出ることもあります。また、モンタナの自然公園は日本とは比べ物にならないくらい大きく、景色も圧巻です。アメリカ全体の傾向として物価は高いですが、他の州と違い、モンタナには消費税が無いのも魅力の一つです。少しでも皆さんの参考にできれば幸いです！



レベル別の履修形態

- ケース1 (TOEFL ITP®テスト 450-469)
3月上旬～5月中旬: ELI Courses
5月中旬～7月下旬: ELI Courses
8月下旬～12月中旬: ELI Courses and/or Pathway Program
- ケース2 (TOEFL ITP®テスト 470-524)
3月上旬～5月中旬: ELI Courses
5月中旬～8月下旬 (ELIは7月中旬まで): ELI Courses and/or Pathway Program
8月下旬～12月中旬: Pathway Program and/or Academic
- ケース3 (TOEFL ITP®テスト 525+)
3月上旬～5月中旬: ELI Courses
5月中旬～12月中旬: Academic

*Pathway Program履修条件: TOEFL ITP®テスト470以上
*Academic履修条件: TOEFL ITP®テスト525以上
またはELI (Level 6) での成績優秀者に対するELI推薦
*渡航後、5月のTOEFL ITP®テストの受験はプログラムに含まれる予定

現地スタッフからのメッセージ

Greetings from the University of Montana! The Global Engagement Office and English Language Institute look forward to welcoming you to campus. Our team supports all incoming international study abroad students and loves helping them make the most of their time in Missoula by connecting them with the community and services UM provides. We look forward to meeting all of you!

Donna Anderson, Executive Director, Global Engagement Office at the University of Montana



空港からのアクセス

最寄りの空港はMissoula空港です。日本からはSeattle経由、もしくは、San Francisco経由で約10時間程度、それぞれの乗り換え空港からMissoula空港までは約1時間半かかります。空港から大学まではタクシーで約15分（料金は約\$25）かかります。電車やバスはありません。



キャンパス

学生は全員寮に入るのが原則で、図書館、スチューデントユニオン、メディカルセンター、ジムなど、勉強と毎日の生活に必要な設備が完備されています。到着後に勉強するELI (English Language Institute) とInternational Officeは隣接しているので、勉強上、または、生活上の質問があれば気軽に現地スタッフに聞ける環境にあります。また、アカデミックに移った後の留学生を対象にした現地スタッフもアクセスのよいオフィスに常駐しています。広大なキャンパス内の移動にはフリーバスがありますが、自転車のレンタルも無料でできます。大学の周りの環境もよく、ダウンタウンにも歩いて行くことができます。



Missoulaについて

ロッキー山脈の麓の町Missoulaはモンタナ州で第2番目に大きい町と言いつつも、非常にのんびりした印象の環境です。歴史的には林業が中心の町でしたが、現在の町の中心は大学と観光となっています。人口は67,000人程度で、大学の回りには美しい河が流れ、カヤックなどのスポーツやフィッシングが盛んです。大学から歩いて行けるダウンタウンにはファッションなイメージはありませんが、雰囲気がよく、充実したブックストアや落ち着いたカフェがあります。



University of California, Riverside



基本情報

UC Riversideは1907年にUniversity of Californiaの柑橘類研究所として設置され、1959年に独立して1キャンパスとなりました。Bourns College of Engineering、College of Humanities, Arts and Social Sciences、College of Natural and Agricultural Sciencesという3つのカレッジと、School of Business AdministrationとGraduate School of Educationという2つの専門職大学院を持っています。その他、近年、School of Medicineが発足しました。現在の学生数は学部が約22,000人、大学院生が約3,700人で、そのうちの約2,000人が留学生です。アメリカの総合大学としては比較的新しい部類の大学ですが、カリフォルニア大学の他校同様、教育、研究ともに高い評価を受けています。またアメリカで3番目に人種的・民族的多様性が高い大学です。

URL <https://www.ucr.edu/>
(course catalog : <https://extension.ucr.edu/>)



所在地	900 University Ave. Riverside, CA 92521
創立年	1959年
運営	公立
参考学費	ESL+Academic (21,900) : \$21,900
滞在方法	寮

レベル別の履修形態

- ケース1 (TOEFL ITP®テスト 500-529)
3月下旬～6月初旬: ESL Courses
7月初旬～8月下旬: ESL Courses
10月初旬～12月中旬: Academic Courses
- ケース2 (TOEFL ITP®テスト 530-549)
3月下旬～6月初旬: ESL Courses
6月下旬～9月中旬: Academic Courses
9月下旬～12月中旬: Academic Courses
- ケース3 (TOEFL ITP®テスト 550+)
3月下旬～6月中旬: Academic and/or Extension Courses
6月下旬～9月中旬: Academic Courses
9月下旬～12月中旬: Academic Courses

*TOEFLのスコアは参考で、正式には到着時のプレメントテストの結果で履修形態を決定する。

空港からのアクセス

最寄りの空港はOntario空港ですが、日本との直通便がないため、Los Angeles国際空港を経由し、そこからハイウェイで移動するのが一般的です。所要時間は約1時間半です。UC Riversideの中心地区にAmtrakの駅があり、Los Angelesとの路線が存在しますが、便は限られています。



現地スタッフからのメッセージ

Thank you for considering UCR Extension as a partner in your study abroad journey. UCR is one of the most diverse campuses within the University of California system, and ranks among the top 25 research universities in the United States. UCR partners with universities throughout the world to maintain the highest standards of teaching and to bring a global dimension to our campus and each of our programs. Each year, thousands of international students from around the world come together in Riverside to find their futures at UCR. Since 1975, our programs have delivered top quality instruction and training across many disciplines, and provided international students with meaningful experiences, as part of our global community. Today, becoming a global society is more important than ever – not just for economic reasons, but for social, cultural, political, and environmental reasons as well. Exchange of values, thoughts and ideas provide you with the tools to face, and possibly solve, the many challenges in today's world. UCR has focused on the benefits of building a global community, and we would like to share those benefits with you here in Southern California. Together, we will work hard to help you achieve your educational and career goals. I look forward to personally welcoming you to the UCR family.

Kevin J. Vaughn, Ph. D.



今日からは考える輩

中村 太翼さん



胸のドキドキを信じる

人生は、開けてみるまで中身の分からないチョコの箱のようだと、ある映画が教えてくれました。留学もそれに少し似ていて、UCRでの生活には予想以上の出来事がありました。その中で環境に慣れ、UCRは過ごしやすい場所だと感じるようになりました。

カリフォルニア大学リバーサイド校 (UCR) は、GC学部のSA先の中でも、学習環境と生活環境が整った大学です。私がUCRを選んだ理由は、英語力の向上に加え、アメリカの文化や価値観に直接触れたいと思ったからです。特に映画が好きで、現地の空気に触れながら過ごす中で多くの刺激を受けました。

授業はディスカッションやプレゼンテーションが中心で、自分の意見を積極的に伝える機会が多くあります。GCで学んだコミュニケーションスキルが活かされ、英語での発表にも自信が持てるようになりました。課題を通して、語学力だけでなく、論理的に考えて発信する力も身についたと感じています。

生活面では、寮に音楽室、自習室、ジム、屋外の運動施設など設備が充実しており、学習とリフレッシュの切り替えがしやすい

環境です。徒歩圏内にスーパーやレストランもあり、初めての海外生活でも安心して暮らせます。

課外活動では、写真や映画、スターウォーズクラブに参加し、同じ趣味を持つ人と交流する中で自然と英語を使う場面が増えました。また、UCRは立地の良さも魅力で、公共交通機関のみでLAダウンタウンやハリウッド、サンタモニカへ行ける点も印象的でした。映画好きの私にとって、実際のロケ地を訪れながらアメリカ文化を体験できたことは貴重でした。

こうした環境で過ごした時間は、学ぶ・暮らす・挑戦するという面で自分を成長させてくれました。UCRでの経験は、変化の中で自分で考え、判断しながら進む姿勢を持つきっかけにもなりました。ここで得た学びを土台に、これからも考えることを大切にしていきたいと思っています。こうした経験から、UCRはこれからSAを考えている方にとって安心して挑戦できる留学先だと思います。

キャンパス

図書館やStudent Union、Cafeteria等多くの設備が整っており、正規の学生と同じように利用することが可能です。また広大なキャンパスを安全に移動できるよう、夜間にはエスコートサービスが利用できます。キャンパスの外にもUniversity Villageと称する施設があり、1階に様々な種類の飲食店や商店が入っています。University Villageには映画館もあり、平日の午前中には授業用教室として活用されています。1年間の滞在の形態としては、キャンパスに隣接した学生レジデンスに入居します。



Riversideについて

ほとんど雨の降らないカリフォルニアの砂漠地帯に19世紀終わりから20世紀にかけて柑橘類の栽培が始まったことをきっかけに発展してきたのがRiversideです。Los Angelesのような大都市の喧嘩から離れ、学習や研究に集中しやすい街と言えるでしょう。そのためかUC Riverside以外にも3つの大学がこの地にキャンパスを構えています。交通に関してはバス路線もありますが、住民の基本的な移動手段は自家用車です。



University of California, Davis



URL <https://www.ucdavis.edu>



所在地	One Shields Avenue, Davis, CA 95616
創立年	1959年
運営	公立
参考学費	ESL+Summer session+Academic (8,500+8,600+8,600) : \$25,700
滞在方法	ホームステイ

基本情報

University of California, Berkeleyの農学専門学校として1909年に開設され、1959年に1キャンパスとして独立しました。College of Agricultural and Environmental Sciences、College of Engineering、College of Letters and Science、College of Biological Sciencesという4つのカレッジと、School of Education、School of Law、Graduate School of Management、School of Medicine、School of Veterinary Medicineなどの専門職大学院を持っている総合大学です。これらの組織により102の学部専攻課程と101の大学院プログラムが提供されています。現在の学生数は学部生が約31,000人、大学院生が約8,000人で、そのうち約17.5%が海外からの留学生です。生物学、農学を中心とした理系分野の研究で有名ですが、教育学にも定評があります。また、East Asian Studies関連の科目も多く存在します。

小さなまちでの大きな出会いと発見

春日 愛奈さん



迷っても「やってみる」がカギ

カリフォルニア州の州都サクラメントから車で約20分の場所にあるデイビスは、カレッジタウンと呼ばれ、UC Davisのキャンパスを中心として人々が暮らしています。多くの大都市を抱えるカリフォルニアでの生活と聞くと、不安を感じる人もいますが、デイビスは、日が暮れた時間でもダウンタウンは大学生で賑わう、比較的治安の良い街です。街の中では自転車やバスを使って簡単に移動することができて便利です。たくさんの緑や動物たちに囲まれた自然豊かな環境でもあります。そして何より、デイビスの人々はとても温かくフレンドリーです。

UC Davisは世界中に知られるカリフォルニア大学群の1つであり、先進的な研究に携わる教授陣の指導を受けながら、学生も誇りを持って勉学と学生生活の充実にも力を入れています。アカデミック科目はレベルが高く、ときには難しく感じることもありますが、その経験によって高い英語力だけでなく広く深い知識を身につけることができます。授業では先生方やクラスメイト、TAの方々に積極的に話しかけることで、多くのサポートを受けることができます。おかげで安心して楽しく学ぶことができました。

授業以外の活動では、ヒップホップや社交ダンスなど、様々な

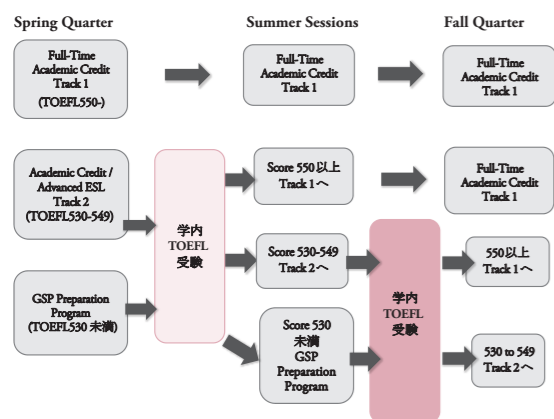
ダンスコミュニティに参加しました。多様なバックグラウンドを持つ人々が集まる地域で、ダンスを通して様々な文化を学ぶことはとても良い経験でした。秋学期には正式メンバーとして週3回の練習に参加し、素敵な友人たちと出会いました。文化的背景や母語の違いに関係なく、同じものに情熱を傾け、好きなことを一緒に行う中で心は通じ合うのだと気づくことができました。

私が今回のSAで心に決めた「やってみる」の気持ちの先にあった出会いと発見は、少しの勇気を出して挑戦する大切さを改めて感じさせるものでした。キャンパス内では各々の好きな場所で課題に励む学生たち、街中ではカフェで談笑する人々、広い公園ではサッカーで汗を流す若者たちを目にしなが、毎日刺激的で充実した生活を送ることができて心からうれしく感じています。

小さな街だからこそ、何気ない日常にある大切なことに気づくことができ、思い切り勉学に励むことができるデイビスでの留学生生活をぜひ体験してください。



レベル別の履修形態



Full-Time Academic Credit Track 1	アカデミック科目 (12-13 Units)
Academic Credit / Advanced ESL Track 2	アカデミック科目とESL上級科目 (合計12-13 Units)
GSP Preparation Program	アカデミック科目 (1-2 Units) とフルタイムのESL

空港からのアクセス

San Francisco国際空港からUC DavisキャンパスまではDavis Airporterという会社のシャトルバスを利用して移動するのが一般的です。片道の料金は\$110、所要時間は渋滞がなければ約1時間半です。San Franciscoから鉄道で移動することも可能です。乗り継ぎ地点であるRichmondまでの便が20分毎、RichmondからDavisに向かう便が1時間毎に出ており、全体の所要時間は1時間半から2時間です。鉄道の場合、料金は\$30程度で済みますが、慣れないうちはAirporterを使うのが無難です。



キャンパス

UC DavisのキャンパスはDavis駅の西、徒歩で15分程度のところにあります。多くの学生は自転車または通学バス (Unitrans) で大学に通っています。学生寮はありますが、正規の学生が優先入居するため、中短期留学生の多くはホームステイを利用します。GC学部の学生が参加するUC Davis Global Study Program (GSP) では、図書館やアスレチックジムなど、あらゆる大学設備を他の学生と同じ条件で利用することができます。キャンパスの東側と西側にカフェテリアや食堂があり、\$10くらいで昼食を取ることができます。広大なキャンパスには消防署や警察署も存在します。また、多くの学生が自転車を利用しているため、自転車修理店もあります。



Davisについて

Davisは比較的小さな大学町ですが、その分、様々な商店や施設がダウンタウンの徒歩圏内に集中しており、留学生でも日常生活に不便することはありません。治安が比較的良く住みやすいことに加えて、最近では全米でも特に教育が盛んな地域としても知られています。学生をはじめ、住民の自転車利用率が高く、そのためのインフラ整備も進んでいることから「自転車の町」であることも特徴です。町の中やUC Davisキャンパスでは、自転車の形を取り入れた意匠が目につきます。2010年にはダウンタウンに程近いCentral Parkに全米自転車殿堂が開設されました。



現地スタッフからのメッセージ

The GSP is a unique program that offers you access to a world-class education at one of America's top public research universities while also ensuring you are surrounded by advisors and staff who will assist you in meeting your academic and personal goals. I encourage you to learn more about our program and to come experience our world-class campus and safe, friendly college-town for yourself!

Jacob Hosier



Arizona State University



URL <https://www.asu.edu/>
 (course catalog : <https://webapp4.asu.edu/catalog/classes>)



所在地	Tempe, Arizona, 85281 USA
創立年	1885年
運営	公立
参考学費	ESL+ESL+Academic (3,800+3,800+20,723) : \$28,323
滞在方法	ホームステイ

基本情報

Arizona State University—通称ASU（アリゾナ州立大学）Tempe校はArizona州Tempe市（州都Phoenixに隣接）にあり、1885年に設立されたArizona州最大、最古の州立大学です。ASUのキャンパスは全部で4ヶ所ありますが、Tempeのキャンパスには60,000人近くの学生が在籍し、160以上の国からの留学生が学んでいます。ASUの多くの部門はUS News and World Reportによって全米50位以内にランキングし（理工系中心）、これまでも3人のノーベル賞受賞者、4人のピューリッツァー受賞者を輩出しています。砂漠の景観を生かした広大なキャンパスにはFrank Lloyd Wright（フランク・ロイド・ライト）による有名なホール（グラディ・ガメージ講堂）の建築物もあり、アメリカ南西部の自然と調和した美しい大学です。

レベル別の履修形態

- TOEFL ITP®テスト 490-500+GPA3.0以上
3月上旬～5月上旬 ASU Global Launch (ESL) でスプリングセッション (57iBT)
- 5月中旬～7月中旬 ESLでサマーセッション
- 8月下旬～12月中旬 ASUで正課授業

*出願申請の際、卒業した高校の3年間分の成績証明書（英文）が必要
 *3月から5月までのESL上級クラス・レベル1 (Advanced 1) で「A」か「B」、5月から7月までのESL上級クラス・レベル2 (Advanced 2) で「A」か「B」の成績を修めれば、TOEFL®テストが免除され、ASUの正課プログラムに進むことができます。



空港からのアクセス

Tempeは州都Phoenixの都市群の東部に位置しています（フェニックスの都市群を形成する市には他にスコッツデール、メサ、グアダルペ、ギルバード、チャンドラー市などがあります）。Arizona州の玄関口であるSky Harbor国際空港は市の北西にあり、Tempe市へのアクセスもよく、Tempe市は州都Phoenixに隣接しているため、大学へも空港から15～20分ほどしかかかりません。



現地スタッフからのメッセージ

Erin McCloskey is the Program Coordinator for ASU Global Launch dedicated to serving the Japanese students and staff at Doshisha. Erin has lived and worked many years internationally, in countries such as Spain, Puerto Rico, Peru, Thailand, China, Taiwan and Vietnam as well as with international students in both formal and volunteer organizations. As a learner of other languages and as a teacher, she enjoys being part of the Global Launch team to foster relationships that are meaningful and life-changing in an educational environment. She enjoys spending time hiking and walking in beautiful Arizona, and she looks forward to making sure the Doshisha students have an amazing experience.

Erin McCloskey, Program Coordinator, Global Launch



アリゾナで見つけた自分の可能性

北川 裕奈さん



様々なことにチャレンジして、楽しく充実した留学生活を送れることを願っています。

壮大な自然と砂漠に囲まれたアリゾナ州。夏は非常に暑く、冬は朝晩の寒暖差が激しいですが、日中の曇一つない青空と夕方の美しい夕焼けに、毎日心癒されながら過ごしていました。

語学学校のGlobal Launchでは、毎週開催されるイベントを通してクラスメイトや現地の学生と多く交流することができ、授業だけでは学べないスラングや日常会話を実践的に練習できます。さらに、セドナ観光、MLB観戦、ASUのアメフト観戦など、さまざまなアクティビティがあり、毎週予定が埋まるほど充実していました。そのおかげで、アメリカでの生活にもすぐに慣れることができました。

私は語学学校修了後もスタッフとしてアクティビティに参加し、宿題や学校生活のサポートに携わりました。8月下旬からは盛大な入学パーティーとともにアカデミックプログラムが始まりました。授業はほとんどがディスカッション形式で、最初は苦戦しましたが、次第に自分の意見や質問を積極的に発信できるようになりました。

また、ASUには1,000を超える学生団体があり、その多様さも大きな魅力です。私はトライアウトを受けて女子サッカー部に入

部しました。チームに所属したことで、より自然な英語での会話を体験できるようになり、「Regionals」と呼ばれる地区大会にも出場しました。サッカー遠征を通してチームメイトとの絆が深まり、かけがえのない存在になりました。

この約9か月間の留学生活は、長いようであっという間です。

新しいことに挑戦し、自分のスキルを試す中で、チャンスは自ら一歩踏み出した分だけ広がっていくのだと実感しました。ASUでのさまざまな経験や出会いは、間違いなく私自身を大きく成長させ、これからの人生の糧となる忘れられない財産です。



キャンパス

図書館、スチューデントユニオン、メディカルセンター、ジムなど、勉学と毎日の生活に必要な設備が完備されています。3月のプログラム開始時から、一般のASUの学生と同じようにそれぞれの設備が使用可能です。また、ESLの授業はキャンパスの様々な建物の教室で実施されているので、大学の雰囲気を感じることができます。宿舎はホームステイが基本となります。価格は月額US\$660前後です。ASUの寮についてはタイミング的にも応募は難しいのが現状です。



Tempeについて

Tempeの気候は、4月から10月にかけては温暖で過ごしやすく、日中の気温は摂氏15度から27度です。夏はかなり暑くなり、その平均気温は38度ですが、湿度が低いので、比較的過ごしやすいと言われています。冬には雷雨が時折見られますが、年間を通して雨はほとんど降りません。ダウンタウンには様々なレストランやカフェ、お店が並び、活気あふれる街になっています。建物はれんが造りの外観で統一され、街全体がとてもきれいな雰囲気です。治安も良く、金曜日や週末の夜には学生であふれかえります。



Vancouver Island University



URL <https://www.viu.ca/>

(course catalog : <https://www.viu.ca/programs/courses>)



所在地	900 Fifth Street, Nanaimo, BC Canada V9R 5S5
創立年	1969年
運営	公立
参考学費	ESL+Academic+Academic (6,300+5,320+8,280) : CA\$19,900
滞在方法	前半：ホームステイ、後半：ホームステイまたは寮（空室があれば）

基本情報

1969年にMalaspina Collegeとして設立され、2008年9月1日にVancouver Island Universityとして、大学に昇格しました。4つのキャンパスで約13,000人の学生が学ぶ中規模大学です。SA先であるNanaimo Campusがメイン・キャンパスです。Business、Tourism and Hospitality、Science and Technology、Art、Design and Performing Arts、Humanities、Education、Health Science、Human Servicesなどの分野があり、実務の分野に特に秀でています。実務的な事柄に関する授業を取ってみたいという学生には特に向いていると言えるでしょう。



レベル別の履修形態

●ケース1 (渡航時 IELTS 6.0*)

- ① 2月下旬-4月中旬: ESL (University Preparation 5)
- ② 5月上旬-6月中旬: ESL (University Preparation 5)
- ③ 6月下旬-8月上旬: Academic (正課科目)
- ④ 9月上旬-12月中旬: Academic (正課科目)

●ケース2 (渡航時 IELTS 6.5、TOEFL iBT 88 or 4.5**)

- ① 2月下旬-4月中旬: ESL (University Preparation 5)
- ② 5月上旬-6月中旬: Academic (正課科目)
- ③ 6月下旬-8月上旬: Academic (正課科目)
- ④ 9月上旬-12月中旬: Academic (正課科目)

*全てのバンドが5.5以上である必要があります。なお、③の期間は受講できる科目に限られることがあります。

**全てのバンドが6.0以上、TOEFL iBT: (旧スコア) 全てのバンド20以上、(新スコア) 全てのバンド4.0以上である必要があります。なお、②③の期間は受講できる科目に限られることがあります。

空港からのアクセス

日本から最寄りのNanaimo空港まではバンクーバーを経由します。Nanaimo空港から街の中心地までは車で約20分。到着時にはNanaimo空港にホストファミリーが迎えにきます。



現地スタッフからのメッセージ

Welcome to Vancouver Island University (VIU), where our campus is nestled between the ocean and the mountains in beautiful Nanaimo, British Columbia. VIU is always ready and excited to welcome students from Doshisha. At VIU, we deeply value student diversity as it provides unique perspectives and experiences that enrich the lives of all who work and study on campus. As an international student at our campus, your cultural perspective will not only be valued, but celebrated. Throughout your academic journey at our institution, you will be supported through a range of services and encouraged to expand your student experience through a variety of academic and social activities. We look forward to meeting you!

Carolyn Russell, Vice-President Students



The Island Way of Life

野中 美和さん



日常と思える日々を大切に!

私たちの大学が位置する町ナナイモは、カナダの他の地域と比べると寒暖差が少なく過ごしやすい気候となっています。冬場は曇りや雨が多いですが、夏は晴れて涼しく、日本のような蒸し暑さに悩まされることはありません。海に囲まれた自然豊かな環境で、行く先々で美しい景色が広がっています。日常の通学路でもリスやシカを見かけることがありますし、大学構内にもウサギがたくさんいたり、カナダの自然を常に感じることができます。

VIUの学生たちは年齢も国籍も様々です。語学学校でも、週に1回開催されている文化交流イベントでも、いろいろな背景を持つ人たちと出会うことができます。私は3月に始まった語学学校を6月に卒業し、その後合計で5つのアカデミック授業を受講しました。夏はオンラインコースが主ですが、9月からの秋学期には本格的な対面授業が始まります。留学前のIELTSのスコアが十分に高い場合は5月頃からアカデミック授業を受けることも可能です。個人的に履修してよかったと感じているのは観光学と犯罪学の授業です。友人の間ではマーケティング学や心理学も人気でした。受講生が次々に挙手して意見を述べるスタイルの授業は刺激的で興味深いものですが、他の学生と自分を比べて、英語力や知識の差を感じて焦ることもありました。しかし、ポジティブで親切な先生方と優しいクラスメイトに恵まれ、学期中で

初めてクラスメイトたちと対等に議論できていると思えた瞬間はとても嬉しかったです。

そのような留学期間中に最も私を支えてくれたのはホストファミリーとの日常です。カナダという異国で初めて出会ったホストファミリーと共同生活することに最初は緊張していましたが、一緒に夕食をとりながらその日あったことや楽しかったことを話したり、休日には一緒にゲームやパン作りをしたりする中で、私を家族の一員として扱ってくれていることを実感しました。彼らとの何気ない時間が大きな安心感を与えてくれ、さまざまな困難を乗り越える力になりました。今回の留学を支えてくれたホストファミリーは、今では本当に大切な存在になっています。

カナダに来て最初は新鮮に思えたことでも、何ヶ月も過ごしていると徐々に生活の一部として溶け込んでいきます。その中で、長期留学だからこそ得られる小さな気づきや学びをたくさん見つけてください。留学の10ヵ月間は海外での生活が日常になる特別な時間です。みなさんが素敵なナナイモでのIsland Lifeを送れることを願っています!



キャンパス

キャンパスはNanaimo Harborから高台に2キロほど上ったところにあります。タクシーだと5〜6分、徒歩だと30分強かかります。キャンパスからは海が見渡せて、すばらしい眺望です。建物はどれも清潔で新しく、図書館も充実し、十分なコンピュータ・スペースもあります。Cafeteriaは料理を学ぶ学生によって食事が調理されるなど、実務教育を重んじるこの大学らしい取り組みが行われています。その他、本屋や文具などを売る店なども充実しています。キャンパスの一角には日本の大学が寄贈した美しい日本庭園があり、日本とのゆかりも深いことがうかがえます。



Nanaimoについて

Nanaimoは、大都市Vancouverの対岸に位置するVancouver島南部のリゾートタウンで、自然豊かな美しい街です。Commercial Streetと呼ばれる中心の通りに沿って銀行や商店がこじんまりと並んでいて、30分もあれば十分見てまわれる大きさです。また、海岸沿いにもレストランや土産物店が並んでいます。自然にも恵まれた環境で、Nanaimo Harborからの風景はすばらしく、治安もいたって良好です。カヌーなど、さまざまなアウトドア・アクティビティも楽しめ、室内プール、スケート場などもあるので、スポーツを楽しむにも最適な環境です。地理的にVancouver、VictoriaそしてアメリカのSeattleとも近いことから、週末や連休などを利用して観光に行くのもよいでしょう。



University of Guelph



URL <https://www.uoguelph.ca/>

(course catalog : <https://colleague-ss.uoguelph.ca/Student/Courses>)



所在地	50 Stone Road East, Guelph, ON N1G 2W1, Canada
創立年	1964年
運営	公立
参考学費	ESL+Academic(11,610+12,210) : CA\$23,820
滞在方法	前半 : ホームステイ、後半 : ホームステイまたは寮 (空室があれば)

基本情報

1874年に設立されたOntario School of Agricultureを母体として、1964年に設立された総合大学です。教育、研究ともにトップレベルで、カナダのニューズ雑誌Maclean社が毎年発表している大学ランキングで常に上位を保つ名門校です。また、カナダ最大の全国紙であるThe Globe and Mailが実施したカナダ大学評価において、生徒満足度、授業の質、教師陣の接しやすさ、キャンパスの雰囲気、環境への貢献度等の項目で常に高評価を収めています。75以上の専攻を有し、約30,000人の学生が学んでいます。心と身体のバランスを重んじる大学で、学業とともにスポーツをすることも推奨され、クラブ活動も大変盛んな大学です。



ゲルフがくれた新しい毎日

長濱 和沙さん



広がる世界の中で、自分らしい選択を

ゲルフはカナダでも安全な街として知られており、田舎と都会のバランスのとれた街並みが魅力的です。カナダ最大都市のトロントにも近く、アクセスの良さや利便性に優れています。大学内には勉強に適した充実した設備が整っており、種類豊富で美味しい学食、ジムも併設されています。

ゲルフ大学ではまずELPの6ヶ月間で3つのレベルを修了します。ELPには10段階のクラスがあり、自分に合ったクラスで勉強できることが特徴です。週4日、リーディング・ライティング・スピーキングの3技能を鍛えます。グループ課題が多く、仲間との意見交換を経て、新しい視点や考え方に触れることができました。また他国からの留学生と学校内外で積極的に交流し、共に英語力を磨きました。留学生の受け入れが盛んなため、イベントやサポートもとても充実しています。各タームごとの数週間の休みでは、アメリカやカナダを旅行していました。

そして9月からはアカデミック科目を受講します。3科目を選択し、私の場合は観光学、マーケティング、環境地理学を受講しました。学部数が多いので、選べる科目の幅も広く、自分の興味に合わせて様々な分野を受講できます。授業内容によっては難しく感じることも

ありましたが、TAや先生、友達に助けを求めたり、復習をしたりすることで理解を深めました。

授業外では、クラブやサークル、イベントやボランティアなどで現地生と交流している人が多かったです。私は地域の吹奏楽団に所属し、毎週末練習に励みました。そこではバックグラウンドが異なる様々なメンバーと繋がりを持つ事ができました。また演奏を通じて地域の方々と交流することが、私なりのゲルフへの恩返しになったと感じています。

留学先では自分の気持ちに正直に行動することが大切です。ゲルフは私にたくさんの選択肢を与えてくれました。その中で何を掴み取るのかは自分次第です。自ら目標達成に向けて積極的に挑戦すれば、それに応えて助けてくれる人がいるはずです。このSAでは英語力の成長だけでなく、価値観を広げ、自分らしさを見つける時間になったと感じています。



レベル別の履修形態

●ケース1 (渡航時TOEFL ITP463-496 IBT50-59 IELTS5.5)

3月、4月: ESL (ELCP レベル6*)
5月、6月: ESL (ELCP レベル7)
7月、8月: ESL (ELCP レベル8)
9月上旬~12月中旬: Academic

●ケース2 (渡航時TOEFL ITP497-516 IBT60-66 IELTS6.0)

3月、4月: ESL (ELCP レベル7)
5月、6月: ESL (ELCP レベル8)
7月、8月: ESL (ELCP レベル9)
9月上旬~12月中旬: Academic

●ケース3 (渡航時TOEFL ITP517以上 IBT67以上 IELTS6.5以上)

3月、4月: ESL (ELCP レベル8)
5月、6月: ESL (ELCP レベル9)
7月、8月: ESL (ELCP レベル10)
9月上旬~12月中旬: Academic

*English Language Certificate Program

**プレACEMENTテストの受験が必須です。プレACEMENTテストの結果が優先され、受講開始レベルが決定する場合があります。

空港からのアクセス

最寄りのToronto空港までは日本から直行便が出ています。Toronto空港からGuelph大学までは、Guelph大学が手配するリムジンバスで向かいます。所要時間は約1時間です。



現地スタッフからのメッセージ

It is with a great deal of pleasure that I extend a warm welcome to students from Doshisha University's Faculty of Global Communications. At the University of Guelph, we value our important and strong partnership with Doshisha University, based on our mutual commitment to providing students with a global perspective that enriches the communities we live in. When you study at the University of Guelph, you will become part of a student body who share a spirit for innovation, collaboration and social consciousness. This environment provides opportunities for you to enrich your language skills as you gain valuable life experiences, make important contacts and to make a difference in the world. We are confident that the time you spend in our language program as well as our undergraduate courses and participating in extracurricular activities will be an unforgettable experience.

I look forward to welcoming you to Guelph!

David Siefker



キャンパス

470ヘクタール(東京ドーム100個分)の広大なキャンパスは、19世紀の古い建物と最新設備を備えた新しい建物が調和し、美しく機能的な空間を作り出しています。図書館、2つのアイススケートリンクやスポーツセンター、カフェテリア、最新の実験施設がある工学部など非常に充実した設備を誇ります。なかでもスポーツセンターは2016年に改装・拡充され、設備が更に充実しています。Field Houseと呼ばれるドーム型のグラウンドもあり、一年を通してサッカーなどの屋外スポーツが楽しめます。勉学に励みながら、スポーツやトレーニングなどで気分転換をしてみるのもいいでしょう。大学の敷地内にはArboretumと呼ばれる大きな植物園があり、学生だけでなく多くの地域住民の憩いの場となっています。



Guelphについて

Torontoから南西約100キロのところに位置するGuelphは人口約14万人の都市で、GuelphからToronto市内中心部にあるバスターミナルまで1時間20分程度で、料金は片道10ドル程度の道のりです。スコットランド出身の小説家John GaltがUpper Canada開拓の目的で1825年に設立したCanada Companyの拠点として、1827年に町の建設が始まった歴史ある街です。ヨーロッパの街をモデルに設計されたGuelph市内には、市庁舎や聖母教会など数多くの歴史的建造物が残っています。中心街、および大学の近くには大型のモールや映画館などがあり、日々の生活を快適に過ごすことができます。



Brock University



URL <https://brocku.ca/>

(course catalog : <https://brocku.ca/webcal/courses.php>)



所在地	500 Glenridge Avenue St.Catharines, Ontario, L2S 3A1
創立年	1964年
運営	公立
参考学費	ESL+Academic (10,330+14,030) : CA\$24,360
滞在方法	前半 : ホームステイ、後半 : ホームステイまたは寮 (空室があれば)

レベル別の履修形態

●ケース1 (渡航時TOEFL ITP500 IBT61 IELTS5.5)

2月下旬~4月: ESL (IELPレベル4*)
5月~8月: ESL (IELPレベル5)
9月上旬~12月中旬: Academic

●ケース2 (渡航時TOEFL IBT88 or 4.5, IELTS6.5**)

2月下旬~4月: ESL (IELPレベル5)
5月~8月: Academic***
9月上旬~12月中旬: Academic

ケース1のスコアがない場合、渡航前のレベルテストによりスケジュールが決まります。

*Intensive English Language Program

**TOEFL iBT (旧スコア) 全てのパート21以上 (新スコア) Reading/Speakingが4.0以上かつWriting/Listeningが4.5以上、IELTS全てのパート6.0以上

***5月から8月は受講できる科目が限られることがあります。

基本情報

Brock大学は、1812年の英米戦争で英国軍を率い、自らは命を落としながらもアメリカ軍の侵攻からカナダの国土を守った名将、Isaac Brock卿に因んで1964年に設立されました。学士課程、大学院課程を擁するカナダの総合大学で、きめ細かい教育と卒業後の就職率の高さに定評があり、現在約19,000人が在籍しています。留学生も多く、110以上の国から約2,300人（その内200人が語学学校生）が学んでいます。人文学、社会学、ビジネス、環境学、国際政治などの分野において120以上のコースを開講しています。歴史ある学問を守る一方、新しい時代を見据えたコースの開発にも熱心であり、最近では、ゲームデザインやゲームプログラミングといったコースが新しくスタートしました。大学付属語学学校は1982年から歴史があります。語学学校生にもPCルーム、カフェ、ジム、図書館などの大学施設が開放され、また大学の多様な活動にも参加することができます。

空港からのアクセス

日本からはToronto Pearson国際空港への直行便が出ています。Toronto空港からホームステイ宅のあるSt.Catharinesまではリムジンバスで約1時間の距離です。



現地スタッフからのメッセージ

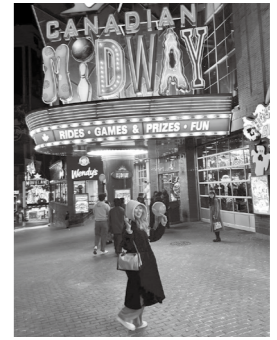
Brock University is a top destination for students looking to study English. We make it our goal to ensure every student has the best learning experience possible during their time with us. Our staff team combines a strong curriculum with external learning opportunities and integrated campus life activities to help our Intensive English Language Program (IELP) students experience campus life in Canada. Brock University also has strong ties to the Niagara region where we are located, allowing you to become members of our community and explore our surrounding area, including Niagara Falls, Niagara-on-the-Lake and Toronto. We look forward to welcoming you to our campus.



Nathan Cheney, Director, Professional and Continuing Studies

留学生ではなく1人の学生として挑戦すること

本田 萌黄さん



絶対に忘れられない留学になる!

「When in Rome, do what Romans do. (郷に入っては郷に従え)」は、私がカナダ留学中に出会い、大切にできた言葉です。決して安くも簡単でもない10ヶ月間の留学で何かを成し遂げなくてはならない、成功と言える経験をしなくてはならない、と構えていましたが、留学生として構えるのではなく、Brock Universityの一員として生活することを意識するようになったことをきっかけに私の10ヶ月間の留学生活は楽しく、充実したものでなりました。

前置きが長くなりましたが、私がBrock Universityに留学をしようと思った理由は、学内イベントが活発であること、ナイアガラの滝やトロント、ニューヨークなどへのアクセスがよいこと、そして多文化主義を自分の目でみたいと考えたことでした。加えて、「ここに留学したい」と感じた直感も大きな理由でした。

実際に留学してみると、毎日多様なイベントが開催されており、討論からボードゲーム、スポーツまで幅広く参加することができました。中でもBUJS (Brock University Japanese Society) の活動では、日本語や日本文化を紹介する機会を通して、現地の学生と交流を深めることができました。こうした経験から「留学生」とではなく「Brockの学生」の1人として人とのつながりを築くことができたと感じています。

休暇期間には、カナダ国内だけでなく、アメリカやヨーロッパにも旅行に行きました。特に、ニューヨークには夜行バスで10時間程度、飛行機で1時間半程度と信じられない感覚で旅行できます。行

きやすい環境があったことで、「何かを成し遂げなければならない」という不安よりも、まず行動してみる姿勢を持てるようになりました。

語学学校 (ESL) ではAcademicプログラムに向けてプレゼンテーションやエッセイ、グループプロジェクトに取り組み、英語のみの環境に徐々に慣れていきました。9月からのAcademicではGCからの17人がそれぞれ興味のあるものを履修しました。今年度の私たちの履修科目は、レクリエーション、レジャー・ツーリズム、ファイナンシャル、コミュニケーション、コンピューターサイエンス、音楽史、レイバーなどです。語学学校と比べると、難易度は上がったものの、主体的に学ぶ楽しさを感じました。

10ヶ月間の留学生活を振り返ると、最初に感じていた「何かを成し遂げなければならない」という焦りよりも、「その場所で生活すること自体を受け入れる」ことの大切さを学んだと感じています。留学生として特別な存在であるとするのではなく、Brock Universityの一員として日常を楽しむことで、多くの出会いや学び、挑戦の機会を得ることができました。留学を通して得た経験は、語学力の向上だけでなく、自分自身の価値観や行動の幅を広げてくれました。この10ヶ月間は、何か一つの成果に集約できるものではなく、日々の積み重ねたものが「成功」だったと思えます。Brock Universityでの留学は、私にとって忘れられないことのない、かけがえのない時間となりました。



キャンパス

Brock大学はオンタリオ湖とエリー湖の間にまたがるNiagara Peninsulaと呼ばれる自然と観光資源に恵まれた地峡に所在します。カナダで唯一、ユネスコ自然保護区に指定された森林を敷地に擁する大学で、広大な敷地に建つ自然豊かなキャンパスが自慢です。Cafeteria、日用品店、書店など、大学生活に必要な様々な機能が備わっており、キャンパス内には近代的なデザインの建物も多く、豊かな自然と相まって非常に快適な学習環境を提供しています。アスレチックセンターや図書館は地域の住民にも開放され、キャンパスは常に多くの学生や地域住民で賑わい活気に満ち溢れています。近年は特に国際交流を積極的に推進しており、Celebration of Nations, International Education Week, International Development Week, African Heritage Monthなどといった様々な国際交流イベントが毎年開催され、キャンパスにはグローバルな香りが漂っています。



St.Catharinesについて

トロントとアメリカニューヨーク州バッファローの間に位置するSt. Catharinesは、世界的に有名な観光地ナイアガラの滝から車でほんの20分、カナダ最大の都会トロントからも車で約1時間、そしてアメリカ国境からも車で約40分と、大変魅力的な場所にあります。人口約14万人、カナダでは中規模の街です。多くのワイナリーを抱えるワインの一大産地として有名な地域で、カナダ名産のアイスワインの産地としてもよく知られています。自然豊かな地域で、美しい公園や植物園が数多く存在し、別名ガーデンシティとも呼ばれています。またスキー場やゴルフコースも多いためリゾートエリアとしても観光名所としても人気があります。

トロントやナイアガラの滝、ナイアガラ・オン・ザ・レイクなどの見どころにも比較的安価なバスでアクセスが可能のため、週末のちよとした買い物や気分転換にも行ってみられることをお勧めします。



University of Southampton



URL <https://www.southampton.ac.uk/>
(course catalog: <https://www.southampton.ac.uk/courses/modules/>)



所在地	University Road, Southampton, SO17 1BJ United Kingdom
創立年	1952年 (Hartley University College, University of Londonとして)
運営	国立
参考学費	Academic session (17,840) : £17,840 学部間協定に基づく交換留学制度あり
滞在方法	寮

レベル別の履修形態

- IELTS 5.5以上 (全てのバンドスコアが5.5以上)、GPA3.0以上
Study Year Abroad with English (Programme code: 6100)
2月中・下旬～6月: English Language and culture modules
7月～9月: Pre-session 11 week programmes
10月～1月: School of Humanitiesのアカデミック科目中心
(3, 4科目)



現地スタッフからのメッセージ

The University of Southampton offers a friendly, international community and a rich range of humanities subjects. Our School of Humanities includes Archaeology; English; Film; History; Languages, Cultures & Linguistics; Music; Philosophy; and the Academic Centre for International Students (ACIS), which provides excellent language and academic support. With inspiring teaching, modern facilities, and easy access to historic and cultural sites across southern England — such as Winchester Cathedral, Stonehenge, Salisbury, the New Forest and London just over an hour away — Southampton is the perfect place to explore your interests and experience British culture. We look forward to welcoming you!

Rosalind Davies
Director of Internationalisation (Education, Study Abroad and Social Enterprise), School of Humanities |
Director of Internationalisation & Enterprise, ACIS (Academic Centre for International Students)
University of Southampton



基本情報

University of Southamptonには国内ベスト3を誇る理工学系の学部を含め、8つの社会科学、人文系の学部があります。Highfield Campusの総合図書館の蔵書数はe-booksを併せて約200万冊、試験前は深夜まで開けていて(スタッフによると夜間の開館はSouthamptonの安全さを象徴しているとのこと)、学生用のコンピュータ台数も多く、快適な学習環境が用意されています。

GCE生が所属するSchool of HumanitiesはCentre for Global Englishesをもち、World Englishesの研究・教育が活発なほか、SouthamptonがJane Austen所縁の土地であることも関連して女性作家研究でも有名です。



空港からのアクセス

Heathrow空港の場合: バス利用 (National Express Coach Service) が便利です。Heathrow空港ターミナル1、2、3近くに乗り場があります。Highfield Campus Interchangeまでの所要時間は約2時間です。あとは必要に応じてUni-Linkバス利用(学生証があれば無料)。

Southampton空港の場合: タクシーで10分ほどで行けます。Uni-Linkバス利用も便利で、10分に1本のサービスがあり、所要時間は20分です。

ロンドンから鉄道利用でSouthamptonに向かう場合、キャンパスへのアクセスはCity Centre駅から市街地を経由するよりもSouthampton空港駅、Southampton Airport Parkway Stationを利用した方が交通事情が良いようです。

あっという間。まさに「あっ!!!」という間

上里田 征弥さん



SAをどのようにするかは自分次第!

GC HPIに掲載のSAレポートには実態が詳しく書かれているので、こちらでは文字通り体験記として学校の紹介ではなく、実際の体験やアドバイスを主に記載したいと思います!

到着するのは2月末なので、イギリスの学期の途中での学業や寮生活の参加ということになり、馴染むのが少し大変です。寮での友達づくりはフラットメイトの性格にもよりますが、授業もあまり英語が堪能でない学生も多いです。なのでこの時期はあらかじめ興味あるサークルや部活に参加したり、ジムに通ったり、前半はかなり余裕があるので旅行に時間を費やしたりするのに最適な、かなり自由な期間です。

授業内容は後半9月末から始まるアカデミックコースがとても面白いです。多くの人が想像する留学生活の本番はここから始まります。授業に必要な英語力が上がり、課題量も授業によってはより大変になるそうですが、その代わり非常に充実した学校生活になります。

旅行はヨーロッパ諸国に近く、日本から行くよりもずっと手軽ですので、時間あるうちに行くことを非常に強くおすすめします! 休み期間は「4月」、Pre-session 前後の5～6月と8月末

～9月末、12月後半～年明けと機会は豊富なので存分に利用してください!

ぜひサークルに参加しましょう! こちらは授業と共にサークル活動をしないとかかなり暇になりますし、友達を作るのは基本サークルなので参加することをおすすめします。Japanese Society やスポーツのサークルだと会話のハードルが低いのでおすすめです! 最初は会話に入るのに気が引けるかと思いますが、大事なものは参加し続けること!! 英語を話したいなら、ここが踏ん張りどころです!

最後に、いくつかアドバイスです。サウスハンプトンの利点として生徒の人種の幅が広いことです。つまり、英語が堪能でないということはそれほど意外ではありません。なので失敗を気にせずどんどん英語を話し、この大切な機会を有効活用しましょう! 失敗は恥ずかしいことではありません。皆さんは大学二年生という最も自由であろう時期を海外で過ごすそうと選択しました。この一年は本当にあっという間に過ぎていきました。この貴重な時期を、今しかない時間を、どうか素晴らしい体験で埋め尽くすことに注力してください。

キャンパス

International OfficeやStudent Union、総合図書館などのあるHighfield CampusとSchool of HumanitiesのあるAvenue Campusとは徒歩10～15分の距離です。

Southamptonの英語学科は国内でも高い評価を得ていて、地元の高校生にとって難関校になっています。語学関連の専攻科目に関連する書物はAvenue CampusのSchool of Humanitiesにある図書室で参照可能で、またコース毎のリーディング資料は全てこのSchool内の図書室にフォルダに入れて保管されています。



Southamptonについて

ヴィクトリア時代に英国一の港となり、クイーンエリザベス2号など名だたるクルーズ船の寄港する港町で、かのタイタニック号も1912年にこのSouthamptonの港から航海に出ました。この港からフェリーで23分、Isle of Wightでちょっとした休日を楽しめます。ロンドンへはCentral駅が、Southampton空港駅から電車で1時間余りです。作家Jane Austenが19世紀の初めに3年ほど住んでいたことでも知られ、所縁の建物が色々あります。Southamptonからは電車・バスなどで1時間半程ですが、Austenが晩年8年ほど活発に執筆活動をしていたChawton HouseはSouthampton大学の研究・教育と密接な図書館になっています。



University of Sussex



基本情報

イギリスの新しい高等教育の先駆けとして1961年に創設され、国内外での人気は高く大学ランキングでは英国内、世界でも上位につけています。すでに3人のノーベル賞受賞者を出したほか、国内外の賞を多く受賞し、アメリカ研究、政治学、美術史は優秀な研究業績を誇ります。総学生数は14,000人を超え、120カ国以上からの留学生が集まる国際色豊かなキャンパスです。



URL <https://www.sussex.ac.uk/>

(course catalog: <https://www.sussex.ac.uk/study/study-abroad-at-sussex/our-programs/semester-and-year-abroad-programs>)



所在地	Falmer, Brighton, BN1 9RH United Kingdom
創立年	1961年
運営	国立
参考学費	ESL+Academic(5,508+9,400) : £14,908 学部間協定に基づく交換留学制度あり
滞在方法	寮

レベル別の履修形態

● IELTS 5.5以上 (全てのバンドスコアが5.5以上)
GPA 2.8以上

4月下旬～6月中旬: Intensive English (英語クラス grammar, reading and vocabulary development, writing skills, listening and speaking)

6月下旬～8月下旬: Pre-sessional English Course

9月下旬～12月: Academic



空港からのアクセス

ほとんどの日本便が到着するHeathrow空港の場合、バス利用 (National Express Coach Service) が便利です。Brightonまでの所要時間は約2時間20分です。鉄道では乗り換えが何度もあり、荷物が多い場合は勧められません。乗り継ぎ便等でGatwick空港に着いた場合、バス利用 (National Express Coach Service) の所要時間はBrightonまで約1時間、鉄道利用の場合30分ほどでBrightonに着きます。上記いずれの手段もBrightonまでなので、その先は鉄道 (National Rail) を利用しキャンパスの真ん前にあるFalmer駅へ電車で8分、路線バス利用もできます。

現地スタッフからのメッセージ

Hello everyone! My name is James Minhas and the International Officer for Japan at the University of Sussex. I was once an undergraduate student at Sussex, studying American History (we are one of the top ranked universities in the UK for American Studies) and love the beautiful green campus and the nearby city of Brighton, where I live now. It is exciting to represent the University in such a wonderful country as Japan and very much enjoy coming to visit in October and March each year.

Sussex is particularly famous in Japan, as we are consistently ranked number 1 in the world for development studies by QS and have a variety of development courses in four different schools. Many of our Japanese graduates go onto work for famous institutions such as JICA, UNDP and UNICEF. Other popular subject areas for Japanese students include: Education, Business, Arts and Humanities, International Relations and Economics. It is my role to help students from Japan come to Sussex, so feel free to get in touch if you have any questions!

James Minhas, International Officer



つながりがこの街を特別にしてい

北野 希望さん



一歩の勇気が新たな出会いを連れてくる

私がこの留学先を選んだ理由は、小さな興味から始まりました。オープン・キャンパスでブライトンの自由な空気感やLGBTQの活動を知り、「イギリスってかっこいい」「周り少し違う場所に行きたい!」と惹かれたのがきっかけです。その思いを推薦入試の面接で伝え、実現した今、これは自分にとって最高の選択だったと感じています。多様な背景を持つ人々と自然に出会い、留学生だけでなく地元の人とも交流が生まれるこの場所で、周りの目を気にしすぎず挑戦できる自分へと変わりました。

ブライトンは、綺麗なビーチ、大自然、アート、歴史がそろって特別な街です。大学の横にはサッカースタジアムがあり、私も4回観戦に行きました。4～8月は夜遅くまで明るく、涼しい海辺の開放感の中で暮らせます。大学のpre-sessionalでは海外の大学で学ぶための基礎を身につけ、自主学習が中心のAcademicでは、BSL (英国手話) やStudio Performanceなど、ここでしか受けられない実践的な科目を幅広く学びました。

大学ではChoir Societyに入り、Carols Serviceに向けた週1回の練習に取り組みました。また、毎週通っていた教会でも聖歌隊とし

てクリスマス礼拝で歌い、200人を超える人の前で歌う経験ができました。現地の友人や留学生の友達も多く聴きにきてくれ、嬉しかったです。さらに教会では学生の集まりやキッズのサポート、礼拝のバンドにも加わり、「コミュニティの一員」として受け入れられた9か月間の経験は宝物です。

一人旅では、勇気を出して話しかけた相手が友達になり、「次は日本だね」と言い合える関係が生まれました。英語は世界中の人とつながり、世界の広さを自分の目で感じるためのツールだと改めて実感しました。病気で二階建てバスの階段での怪我で救急外来に2回行く経験もしましたが、そのたびに支えてくれる人が周りにいて、恵まれた環境だったと思います。

軽い憧れから始まった挑戦が、今ではかけがえのない人生の一部になりました。自由な世界に一歩踏み出すことで、出会いも経験も想像以上に広がります。これを読んでくれた皆さんの「旅」も、素敵な一歩になりますように。



キャンパス

Brightonのような賑やかな街から近く、しかもSouth Downs National Parkに囲まれ自然環境にも恵まれたイギリス内でも屈指のロケーションと言われています。指定建築物である校舎はSir Basil Spenceのデザインで、メインライブラリーはキャンパスに入ってくるのところに位置し、30万冊の蔵書を誇っています。Language Institute内には言語関連の図書室があり、様々なビデオやDVDの貸し出し可能、視聴用の部屋が隣接してあります。食材も買えるUnion Storeがキャンパス内にあり、便利です。Falmer駅舎を出ると通りを隔てて目の前にFalmerキャンパスが広がり、アクセスも良好です。



Brightonについて

ヴィクトリア時代に首都ロンドンからの日帰りが可能な保養地として栄え、現在も海岸線には高級ホテルが立ち並んでいます。2000年頃から若い世代への人気が高まり、物価も上昇しましたが、その背景には英国で最も人気のビーチがあり、リラックスできるスポット、またスポーツや飲食を楽しむ場として発展していること、5月には英国最大級のアート・フェスティバルが開催され、若者の文化が活発であることが挙げられます。街中ではカフェを中心にWiFiが利用でき、場所によってはビーチでもインターネットの使用が可能です。何力所があるショッピングエリアのアンティーク街も有名です。1960年代のサブカルチャーを描いた「さらば青春の光」の舞台です。ロンドンへはBrighton駅から50分程度です。



The University of Newcastle



URL <https://www.newcastle.edu.au/>
 (course catalog) <https://www.newcastle.edu.au/course>



所在地	University Drive, Callaghan, NSW 2308, Australia
創立年	1965年
運営	公立 (州立)
参考学費	English+Academic(11,400+8,100 3科目) : AUD19,500 English+Academic(11,400+10,800 4科目) : AUD22,200
滞在方法	前半 : ホームステイ 後半 : ホームステイまたはオンキャンパス寮

基本情報

1965年創立の比較的新しい大学ですが、リサーチ面では国内トップ10に評価されています。広大な土地を有する郊外型大学では、国内最大の規模を誇っており、約36,000人（内留学生約7,000人）の学生が学んでいます。ニューカッスル市内には2つのキャンパスがあり、主な授業はメインのキャラハン・キャンパスで開講されています。特に、オーストラリアの先住民アボリジニに関する講義が留学生に人気です。シティ・キャンパスでは、ビジネス分野を中心とした授業が行われています。キャンパス間には、移動のためのシャトルバスが頻繁に運行しています。



レベル別の履修形態

●ELICOS（語学学校）終了時にAcademic履修条件を満たしている学生
 2月初旬～7月上旬 : ELICOS
 8月中旬～11月中旬 : Academic

*Academic履修条件 : 日本の大学で1年間履修済み、GPA 2.5以上
 TOEFL iBT®テスト 70 (R:16, L:16, S:18, W:21) / IELTS 6.0 (全てのバンドが6.0以上)
 ELICOS（語学学校）Higher Level Pass in EAP exam

*ELICOS（語学学校）ではAdvanced English for Academic Purposesコースを履修予定。
 日本語学科授業に日本人はバディとして参加を期待されています。

空港からのアクセス

SydneyからNewcastleまでは鉄道、飛行機、バスのオプションがありますが、本数が限られているため、Newcastle大学あるいは、ホームステイ会社手配のピックアップサービスを利用する予定です。Sydney空港から到着後、送迎車でNewcastle（大学・ステイ先）へ向かいます。所用時間は約3時間です。



現地スタッフからのメッセージ

Dear Doshisha University students,
 Welcome to the University of Newcastle!
 I would like to welcome you all and thank you for studying English with the University of Newcastle's Pathways and Academic Learning Support Centre.
 I hope during your time with us you will improve your English language and academic skills, learn more about Australian culture, engage in our award winning Student Experience Program, and make new friends from amongst your classmates who come from around the world to study English with us and improve their global communication skills.



Anna Bennett
 Director, Pathways and Academic Learning Support
 The University of Newcastle

一生忘れることのできない私の大好きな場所

何事も挑戦をしたら、かけがえのない思い出ができる

ニューカッスルはオーストラリア・ニューサウスウェールズ州にある都市です。シドニーから電車で約2時間半と少し時間はかかりますが、シドニーへの行き来は日帰りでも十分楽しむことができます。私が実際にオーストラリアで生活して魅力を感じたのは、まず自然がとても豊かでのどかなところだということです。常緑樹が多いため一年中緑に囲まれており、想像していた以上に治安も良く、多文化国家らしく人々がとても親切でした。学校がない日にお気に入りのコーヒーを片手に庭のハンモックに揺られながら景色を眺めたり、本を読んだり、夜には星を見上げたりする時間が大好きでした。オーストラリアでは、周りの人が皆とてもフレンドリーに接してくれました。そのおかげで、私自身が一番変わったと感じるのは、知らない人に対しても気軽に話しかけ、以前よりフレンドリーに接することができるようになったことです。

語学学校では、さまざまな国の文化に触れられたことが特に印象に残っています。クラスにはサウジアラビア、中国、韓国、インドネシアなど多くの国からの留学生がいて、互いに食べ物を分け合ったりお菓子交換をしたりと、驚くことも多かったです。毎日がとても楽しかった。

佐藤 葵さん

たです。アカデミックな場面では専門用語が難しかったり、教授の英語を聞き取れなかったりして苦戦することもありました。しかし、分からないことに挑戦しながら少しずつ成長していく過程はとても充実していました。特に苦手だったスピーキングは、クラスメイトやホストファミリーと積極的に話すうちに自信ができました。帰国前に友人から「英語がすごく上達したね」と言われたときは本当に嬉しかったです。

ニューカッスルには美しいビーチも多く、何度も遊びに行きました。ホストマザーとジムに行ったり、旅行に出かけたりと、ここではかけがえのない思い出が数えきれないほどできました。オーストラリアでの留学経験は、私にとって唯一無二の成長の時間であり、決して忘れることのない宝物になりました。オーストラリアが大好きになったのも、この素晴らしい経験のおかげです。

キャンパス

メインのキャラハン・キャンパスは豊かな自然に囲まれており、広大なキャンパスの中心部にはELICOS（語学学校）、International office、図書館、文系学部、学生会館等のSA関連施設、さらに医療センター、銀行、郵便局等の施設が集まっています。シティ・キャンパスは、デザイン性の高い建物を特徴としたモダンな雰囲気のキャンパスです。スポーツの盛んなニューカッスルでは、キャンパス内にオリンピック仕様のプールをはじめとする各種のスポーツ施設が設けられ、市内にも、美しいビーチのほか様々な施設が見られます。英語学校期間中はホームステイ滞在のほか、Academic進学後はキャラハン・キャンパスの学生寮への滞在选择も可能です。



Newcastleについて

オーストラリア大陸の南東部海岸、ハンター川河口に位置する港湾都市です。New South Wales州に属し、シドニーの北約160kmに位置します（シドニーへは日帰り旅行可能）。主要産業は石炭の積出、造船などです。ハンターバレーはワインの産地として世界的に有名です。夏はかなり暑くなります（35～40℃）が、冬は温暖な気候です。様々なスポーツを楽しむことができますが、美しいサーフビーチが多く、世界的なサーフィン大会も行われています。近年では、トラムが運行開始するなど、ますます便利でモダンな街並みに進化しています。



Deakin University



URL <https://www.deakin.edu.au/course-catalog> <https://www.deakin.edu.au/study/find-a-course>



所在地	221 Burwood Highway, Burwood, Victoria 3125, Australia
創立年	1974年
運営	公立(州立)
参考学費	English +Academic(10,200+8,700 3科目) : AUD18,900 English +Academic(10,200+11,600 4科目) : AUD21,800 Academic 2学期(3科目を2学期) AUD 17,400 Academic 2学期(4科目を2学期) AUD 23,200
滞在方法	前半:ホームステイ、後半:ホームステイまたは寮

レベル別の履修形態

●ケース1 (DUELI (語学学校) 終了時に Academic履修条件を満たしていない学生)

2月初旬~7月中旬: DUELI
7月下旬~12月中旬: DUELI

●ケース2 (DUELI (語学学校) 終了時に Academic履修条件を満たしている学生)

2月初旬~7月上旬: DUELI
7月中旬~10月下旬: Academic
11月初旬~12月中旬: DUELI

●ケース3 (前年出願時(10月)に Academic履修条件を満たしている学生)

2月下旬~7月上旬: Academic
7月中旬~10月下旬: Academic
11月初旬~12月中旬: DUELI

*Academic履修条件: 日本の大学で1年間履修済み、GPA2.6以上
TOEFL iBT®テスト 69 (Writing 21) / IELTS 6.0 (全てのバンドが6.0以上)
DUELI (語学学校) 60/100 Pass in EAP 3 exam

*DUELI (語学学校) ではEnglish for Academic Purposes 3 コースを履修予定。

* (Academic履修後の) 11月初旬~12月中旬のDUELI (語学学校) では、上級英語のブラッシュアップを実施する予定。

現地スタッフからのメッセージ

I would like to extend my warmest welcome to all new students at Deakin University English Language Institute. The Deakin University English Language Institute (DUELI) is a great place to learn English. Recognised as one of the best English language centres in Australia, DUELI will help with more than just your English, it will give you the chance to improve your study skills and become familiar with studying at an Australian university. You will also have the opportunity to meet new people and make life long friendships with people from all over the world. Whether you want to improve your English for personal or professional purposes – or as a pathway into a Deakin University degree – DUELI is here to help you reach your dream. I look forward to meeting you and welcoming you to campus!



Ben Stubbs
General Manager
Deakin University English Language Institute

基本情報

1974年創立の新しい大学です。約61,000人(内留学生約14,000人)の学生が4つのキャンパス(本校のプログラムはメルボルン郊外のパーウッド・キャンパスで実施)で学んでいます。多方面で活躍できるよう中国語やメディア・コミュニケーションの授業のほか、オーストラリア学などのユニークな専攻が留学生に人気です。スポーツサイエンス分野に強いディーキン大学は、2016年と2017年の世界大学学術ランキングで2年連続1位の快挙を達成しています。附属英語学校(DUELI)はオーストラリアを代表する語学学校の1つであり、学生満足度において非常に高い評価を得ています。Academic(正規科目履修)に進学する学生向けに、英語学校内の有給インターンシッププログラムも提供しています。



空港からのアクセス

Deakin大学手配のピックアップサービスを利用します。Melbourne空港から手配された送迎車で市内(大学、滞在先)へ向かいます。送迎車の移動時間は約1時間半です。



不安の先で見つけた私の居場所

岡崎 真心さん

You are loved, just as you are.

友達にかけてもらったこの言葉を私は今でも忘れられません。慣れない環境の中、ひとりで抱え込んでいた不安がふっと軽くなり、「ここに来てよかった」と心に灯りがともった瞬間でした。

私が留学したディーキン大学は多文化が当たり前混ざり合う場所で、毎日が新しい発見の連続でした。語学学校では、アカデミック英語に特化した実践的な授業が特徴的で、自然と発言が求められる環境のおかげで、勇気を出して英語を話すきっかけが掴むことができました。国籍も文化も違う仲間と、不完全な英語でも必死に伝え合った時間は、私の会話力だけでなく心まで強くしてくれました。

私が履修した「国際環境で働くこと」をテーマにした授業では、周りの学生の英語の速さと自信に圧倒され、発言する勇気が出ない自分に悔しさを感じました。しかし、言葉に詰まった私に“Take your time. I want to hear your idea.”と優しく声をかけてくれる学生に溢れていて最後には自分から手を挙げて発言できるまで変わっていききました。留学は私に英語力以上に信じる力をくれたと感じています。

生活面でも、メルボルンは本当に魅力的な街でした。友達とお気に入りのカフェを見つけたり、週末にはマーケットで買い物しながら

地元の人たちとの温かい会話を楽しんだり、毎日の小さな出会いが留学生活を彩ってくれました。

そして、私の心を支えてくれたのは、宗教という枠を超えて人との繋がりを大切にしているチャーチのコミュニティでした。初めて会った日から家族のように迎え入れてくれ、その輪の中に自然と引き込まれていくのを感じました。国籍も価値観の違う仲間と深く関わる中で、私は「居場所は探すものではなく、心を開いた時に見つかるもの」だと気づきました。

留学は決して楽ではありません。言葉の壁、文化の違い、ホームシック。その全てが自分を試してきました。しかし、迷いながらも一歩踏み出した先には想像以上の出会いと、私も知らなかった強さを持つ自分が待っています!

キャンパス

パーウッド・キャンパスは活気ある都会型キャンパスで、約32,000人以上の学部生、院生が学んでいます。メルボルン郊外東部にあり、メルボルンの中心地からはトラムで約45分です。近代的なキャンパス内にはloon Art Gallery、図書館、カフェ、レストラン、バー、キャンパス・ショップ、書店、各種スポーツ施設等が揃っています。ホームステイのほか、オンキャンパスの学生寮への滞りも可能です。



Melbourneについて

オーストラリア第二の都市で、Victoria州の州都です。伝統的なヨーロッパ風建築とスタイリッシュな新しい建物が立ち並び、様々な民族コミュニティ、世界各国のレストラン等が混在する多文化都市です。天候は温暖で四季がはっきりして過ごしやすい、都会と自然の調和のとれたこの街は、7年連続で「世界で最も住みやすい都市」(エコノミスト誌(2011~2017))の1位にも選ばれています。



Victoria University of Wellington



基本情報

Victoria University of Wellington (VUW) は1897年に設立されました。New Zealandの首都Wellingtonの中心部に位置します。行政を担う官庁街や港公園に隣接した美しい大学です。New Zealandでも最も古い国立大学のひとつであり、約22,000人の学生が勉強しています。そのうちの約2,000人が留学生で、国際色豊かな総合大学です。人文・社会科学部、経営学・行政学部、教育学部、法学部、建築デザイン学部、工学部、理学部、保健医療学部の8つの学部があります。

URL <https://www.wgtn.ac.nz/>

(course catalog : <http://www.wgtn.ac.nz/study/programmes-courses/courses>)



所在地	Wellington, 6140, New Zealand
創立年	1897年
運営	公立
参考学費	EPP+Trimester2+Trimester3(7,518+12,700+10,000) : NZ\$30,218
滞在方法	前半：ホームステイ、後半：ホームステイまたは寮（空室があれば）



とにかく楽しいことたくさんしてください!

若宮 奈那さん



世界が大きく広がった一年

ニュージーランドの首都ウェリントン、ここが本当に首都?と思うほど緑に囲まれている、比較的小さな街です。ウェリントンの魅力は、中心街はほとんど歩いて回れるというその手軽さと、リラックスしていて優しいKiwiの人々、そして移民が多いので、様々な国の人たちと関わることができるという点にあります。加えて、いろんな国の料理が食べられます!私はウェリントンに来てから、ベトナム料理と広東料理に本格的にハマりました。しかし、ニュージーランド特有のハンギ（マオリの伝統料理）やフィッシュアンドチップス、ミートパイなどもぜひ試していただきたいです。

Victoria University of Wellington (VUW) のメインキャンパス (Kelburn campus) は中心街からは少し高い位置にあり、最初の語学学校と、ほとんどのアカデミックの授業がそこで行われます。語学学校は朝・昼の2クラスあり、留学前のTOEFLやIELTSのスコアでクラス分けがされます。アカデミックに向けた語学学校なので大変なクラスではありましたが、たくさんの方が学べました。約2ヶ月の休み期間を終えた後のアカデミックの授業は、基本的に一年生が取るレベルの授業なら何でも取るこ

とができます。中でも特に、マオリの歴史や文化、マオリ語など、マオリに関する授業はおすすめです。住む土地の歴史や文化は知っておくべきことの一つですし、現地の人々から直接学ぶことができるというのは私たちニュージーランドに行く留学生の特権だと思います。

私が留学をしていく上で大事なと感じたことは、常に自分としっかり向き合うことです。留学中には嫌なことも嬉しいこともたくさんありますが、常に自分が物事に関してどう感じたかを指標に行動していくと、後悔することがあまりなかったなと感じました。悩んだときは人に相談してみたり自分の気持ちをきちんと理解した上で答えを出していくと、素晴らしい経験に繋がっていくのではないかと思います。留学は知らなかった自分に出会ったり、今まで知らなかったことを経験できたりする、とても有意義な期間です。語学力を上げることも大事ですが、いろんな人と関わっていろんな経験をして、貴重な留学期間を楽しんでください。



レベル別の履修形態

- ケース1 (TOEFL-ITP®テスト475+/IELTS 4.5+/TOEFL iBT® 34+/Duolingo 70+)
 - 2月中旬～5月上旬: EAP Programme
 - 6月中旬～9月上旬: EAP Programme
 - 11月中旬～2月下旬: Academic (EAP 3, 4, 4, 4)
- ケース2 (TOEFL-ITP®テスト475+/IELTS 4.5+/TOEFL iBT® 34+/Duolingo 70+)
 - 2月中旬～5月上旬: EAP Programme
 - 7月上旬～11月上旬: Academic (EAP 3, 4, 4, 4)
 - 11月中旬～2月中旬: Academic
- ケース3 (下記のAcademic履修条件を満たしている学生)
 - 2月下旬～6月下旬: Academic
 - 7月上旬～11月上旬: Academic
 - 11月中旬～2月中旬: Academic

Academic履修条件: GPA2.7以上およびIELTS 6.0+ (全てのバンドが5.5以上) / TOEFL iBT® 80+/Duolingo 110+/PTE Academic 50+ (communicative score 42以上)

空港からのアクセス

最寄りの空港はWellington空港です。日本からはAuckland 空港経由で約10時間程度、そして、Auckland空港からWellington 空港へは約1時間かかります。空港から大学まではタクシーで約20分かかります。シャトルバスでは約30分～40分かかります (NZ\$18程度)。電車はありません。



現地スタッフからのメッセージ

Wellington is a great place to be a student. New Zealand's capital city is known for its energy and creativity, and for the opportunities it provides to connect with the entrepreneurs and leaders who live here. As an international student at Te Herenga Waka—Victoria University of Wellington, you will be part of a welcoming and supportive community made up of students from more than 100 countries. You will have access to a wide range of support services tailored to international students, and you will be able to take part in the clubs, societies, and volunteering opportunities that interest you. Students at Victoria University of Wellington have easy access to everything the city has to offer. We have strong links to government, business, and environmental and cultural institutions, and our students have the opportunity to be part of the innovation and entrepreneurship ecosystem that this city is known for. Wellington is a safe, compact city with some of the friendliest people in the world. It's also the gateway to some of New Zealand's most stunning scenery. If you're looking for a study experience to remember, Wellington is the place to be.

Professor Nic Smith, Vice-Chancellor



キャンパス

キャンパスはKelburn, Pipitea, Te Aroと3つありますが、大学英語準備プログラムEAP (English for Academic Purposes) も人文系、社会系の大学科目のクラスもほとんどがKelburnキャンパスで開講されています。Kelburnキャンパスは港町Wellingtonが眺められる丘の上に位置しています。このキャンパスに図書館、学生食堂、ジムなどの学生生活に必要な設備はほとんど整っています。Wellingtonの町の中心部である官庁街、デパートやレストランのある繁華街、市民や観光客が集う港公園もすぐ近くにありま。



Wellingtonについて

New Zealandは北島と南島から成っていますが、Wellingtonは北島の一番南に位置しています。美しい海と丘の街で、特に丘の上から望む街の景色は印象的です。芸術、文化の面からもWellingtonは中心的な存在で様々なイベントが開催されています。また、大学から近いニュージーランド国立博物館・パピアはNew Zealandの歴史や自然、そして、先住民マオリの文化について学ぶには理想的な環境になっています。姉妹都市のひとつに大阪の堺市があります。



SAを迎える前に

生活編

SA先の国で安全・快適に過ごすためには、事前の情報収集は欠かせません。以下に挙げた情報はあくまで一般的なものです。特にオリエンテーションや住居については、SA先大学からのインフォメーションにきちんと目を通し、必要であれば各自インターネットを使って調べるなど、自ら情報を収集する癖をつけておきましょう。

■ オリエンテーション

SA先の大学の多くは、新たに入学した留学生にキャンパスや学内施設を紹介するなどの、オリエンテーションを開催しています。オリエンテーションは1日程度のものから、長い場合だと1週間以上に渡ることもあります。参加が義務付けられている場合もあれば自由参加の場合もありますが、できる限り出席することをおすすめします。

オリエンテーションで扱われるテーマは、図書館や医療センターなどの学内施設の紹介や、各種支援サービスなどの学内リソースの紹介、科目履修登録の方法、その国の文化・生活についての説明、ビザや法規制に関する説明など多岐に渡ります。どれも、その国でSA生活を送るために大切な情報です。また、オリエンテーションの場で他の留学生と出会ったり、留学生アドバイザーと知り合うこともできます。

■ 住居

SA先での住居は主に次の2つに分けられ、大学側が指定する住居に滞在します。ただし、SA先地域や大学、年度によって居住形態は異なります。

〈大学寮〉

大学内にある学生寮に滞在する形態です。ルームメイトがいる2人部屋の寮もあれば、個室がいくつかあり、共同で利用するリビングやキッチン、バスルームなどに隣接しているアパートタイプの寮もあります。ほとんどの場合、ベッド、勉強机、クローゼットなどは備え付けられていますが、シーツや毛布などは各自で用意します。生活用品は学生同士で譲り合ったり、近隣のディスカウントストアなどで揃えることが多いようです。

食事は多くの場合、大学の食堂やカフェテリアを利用します。食堂やカフェテリアのMeal-Plan（食費）を寮費と一緒に納める場合もあります。キッチンがついている寮であれば自炊もできます。その他、寮内にはラウンジやシャワールーム、コインランドリーなども完備されています。

〈ホームステイ〉

SA先大学やその提携機関が斡旋する、現地的一般家庭に滞在する形態です。語学留学プログラムなど、比較的短期の滞在期間の場合にホームステイが選択されることが多くあります。家具付きの1人部屋が与えられ、家族の一員としてSA期間を過ごします。ホストファミリーの家族構成は、両親と子供、老夫婦、シングルペアレントと子供などさまざまです。また、人種や宗教なども家族ごとに違います。身をもってSA先の生活様式や文化を学ぶことができると同時に、SA先に「家族」ができる貴重な経験でもあります。

■ 食事

食事のパターンは、大きくわけて以下の3つがあります。いずれの場合でも、偏食を避けて栄養のバランスを考えた食事をとるように心がけましょう。

● Meal-Plan

通常ビュッフェ形式で、通常1週間あたりの食事の回数が決まっています。週15回、19回、21回など自分のライフスタイルに合わせて選べる人が多いようです。

● ホームステイでの食事

一般的に平日は朝・夕食付き、週末や休日は朝・昼・夕食付きとなっています。平日の昼食は、各自でSA先大学のカフェテリアや大学近くのレストランなどで食べることになります。その他、平日・休日を問わず1日3食付きの場合もあり、その場合は平日の昼食は自分でお弁当を準備して持参することになります。

● 自炊

寮の部屋に備え付けられているキッチンや共同キッチンで自炊できる宿舎もあります。できるだけバランスを考えた食事をとるようにしましょう。

■ 課外活動

SA期間中に最も重視すべきことは、授業への出席を始めとする勉強面であることは言うまでもありませんが、放課後や休日などの余暇は各自で自由に時間を使うことができることです。SA先大学の学生や地域の人々との交流は自分次第でいくらでも可能ですので、興味のある活動には積極的に参加して充実したSA生活を送ってください。

SA期間中は、SA先大学にあるクラブ活動に参加したり、ボランティアやインターンシップに参加することもできます。積極的に情報収集をして、興味のある分野の活動を探してみましょう。こういった活動に参加することで、交友関係が広がったり、視野が広がって将来の道が見えてくることもあります。興味があれば、SA先大学の担当者や各団体に問い合わせみてください。

その他、SA先大学の国際センターなどが主催している留学生のための交流プログラムもあります。語学パートナーの制度やInternational Festivalなど、大学によってさまざまなプログラムが準備されていますので、有効に活用しましょう。

■ カルチャーショック

「カルチャーショック」とは、外国など異なる文化の環境下で生活するときに、自分の生まれ育った国や文化で培ってきた言葉や習慣、行動様式などが通用しないことで起こるショック状態のことです。これは、異文化適応のための自然な過程ですが、自分自身の根幹である考え方、生き方、存在そのものを揺るがす場合もあり、その影響が疲労感、焦り、不安、神経質、憂鬱、睡眠不足、摂食障害、対人恐怖症などとなって現れることもあります。

大切なのは、カルチャーショックについてあらかじめ知っておき、実際にカルチャーショックを感じたときに、身近なアドバイザーやカウンセラー、友人に気軽に相談することです。カルチャーショックを感じた出来事を肯定的に受け止め、それを自分なりに克服すれば、自文化と他文化の長所と短所を冷静に比較できる目をもつことができるようになり、状況に応じて臨機応変に行動できる能力が培われることでしょう。

■ 逆カルチャーショック

カルチャーショックとは反対に、SA後に日本の社会に復帰するにあたって直面する適応上の問題や心理的葛藤を「逆カルチャーショック」といいます。SA先の国で培った価値観や行動様式を、そのまま日本に持ち帰ったもののそれが通用せず、「以前とかわった」などと批判されてショックが起きるのです。

逆カルチャーショックへの対処法で大切なことは、自分自身を肯定的にとらえることです。一度カルチャーショックを乗り越えて異文化に適応できたからこそ逆カルチャーショックが起こっているのですから、自分は2つの文化に適応できた、日本とSA先の国の両方の良い面、悪い面について考えることができるようになったという積極的な考え方をするように心がけましょう。

カルチャーショックを克服したように、逆カルチャーショックも月日が解決してくれます。あまり焦らず、自分の置かれた環境をよく観察して、どのようにしたら「SA体験」をこれからの進路に生かせるかを考えましょう。

危機管理・健康管理編

SA先でもつい日本と同じ感覚で行動してしまったり、逆に、SA先での開放感のために日本ではしないようなことまでしてしまうことがあるかもしれません。健康かつ安全なSA生活を送るために、一人ひとりが自分の行動に責任を持ち、安全に配慮することが大切です。

■ 通信手段の確保

SA期間中、日本の家族や友人、大学関係者と連絡をとることができるように通信手段をきちんと確保しておきましょう。特にご家族とは、SA前にしっかり連絡手段・頻度について相談しておいてください。日本に残された人たちは、想像以上に異国の地にいる皆さんの身を案じています。現地に着いたら「無事に到着しました」、折にふれて「元気にすごしています」、旅行に出かける際には「いつからいつまでどこへ出かけます」といった連絡があるだけで、安心してみなさんの帰りを待つことができるのです。また、SA先の国・地域で地震や台風などの大きな災害や事件・事故（ハイジャック、テロなど）が発生したら、いち早く無事であることを知らせてください。

■ セクシャルハラスメント

日本を離れて留学するということは、言葉も文化も異なる国で生活をするということです。時に、文化の相違から意思の疎通が上手くいかず、予想もしないような誤解を招くことがあります。このような誤解が、レイプやセクシャルハラスメントを引き起こすこともあるのです。これらのトラブルから自分自身を守るためには、文化の違いを理解することが大切です。また、これらは日本人だけの問題や女性だけの問題ではなく、誰もが被害者にも加害者にもなり得るのだということをきちんと認識しておきましょう。

他人からの誘いに対して、必要に応じ、はっきり「No」と伝えましょう。あいまいな態度は禁物です。よく知らない人と閉ざされた空間で2人きりになることも避けた方がよいでしょう。万が一トラブルが発生し、当事者同士の話し合いで解決が困難な場合は、大学の留学生アドバイザーやカウンセラーなど、信頼のおける人に相談してください。

■ 麻薬・覚醒剤

近年、世界中で麻薬・覚醒剤の汚染が広がっています。SA先の国の中には、日本よりも薬物が身近に感じられる環境の国があることも事実です。特にマリファナは、タバコよりも害が少なく常習性が低いと考えられている国もあり、日本より比較的手に入りやすいことから、旅行中に手を出す人もいます。

しかし、マリファナを含む麻薬・覚醒剤は、手を出すと、身体的・精神的に薬物に依存してしまい、自発的に使用をやめることが困難になります。気軽な好奇心から薬物に手を染めないよう、海外生活の安全を第一に考え、十分に気をつけて生活してください。麻薬・覚醒剤の所持・使用は世界の多くの国で厳しく禁じられています。国によって違いがありますが、どの国でも薬物犯罪に対してはたいへん厳しい罰則を設けています。

〈薬物犯罪に対する世界各国の最高刑〉
アメリカ・カナダ・オーストラリア・ニュージーランド…終身刑
イギリス…無期懲役 中国・台湾…死刑

■ 自動車の運転

同志社大学では、本学の留学プログラムによる留学中に自動車を運転することを禁じています。慣れない海外での車の運転は大変危険です。「外国人であること」「現地の言葉を十分に話せないこと」「学生であること」は万が一の時の責任を回避する言い訳としては通用しません。海外では道路標識や法律が日本と異なる上に、交通事故を起こしてしまった場合には、多額の賠償金を請求されることがあります。

危機管理については、出発前に詳しい説明会を開催します。

■ 安全の確保とトラブル回避

①自分の居所・所在を明らかに！

SA期間中の居所・所在は、確定や変更（休暇等で短期にどこかへ出かける時を含む）の際、家族、友人（国内外）及び大学の指定する連絡先に必ず知らせてください。

また、旅券法第16条により、外国に住所または居所を定めて3ヶ月以上滞在する日本人は、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に速やかに在留届を提出することが義務付けられています。災害や事件・事故に巻き込まれた際には、日本大使館や総領事館は在留届をもとに皆さんの所在や緊急連絡先を確認して援護にあたります。オンライン在留届（ORRネット）により提出することができます。

詳細は以下のウェブサイトで確認してください。

外務省海外渡航・滞在（届出・所在調査）
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/index.html>
オンライン在留届（ORRネット）
<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>



②現地での行動のポイント

危険は自分でできる限り避けるよう行動しましょう。「自分の身は自分で守る」という基本姿勢を徹底してください。海外は、日本とは常識（特に安全面）が異なることをよく理解しておきましょう。大学以外の環境では特に、絶えず緊張感をもって行動し、安全に関する情報収集に努めてください。また、日没後は一人で出歩かない、大金を持ち歩かない、軽率な行動はとらないなどの注意も必要です。自分自身を客観的に見る目を持ち、犯罪者にとって狙われやすい格好や隙のある行動をしていないかを常にチェックするようにしてください。

大学の中には、深夜にキャンパス内を移動しなければならない際に利用できるエスコートサービスを提供している大学もあります。依頼をすれば寮まで送り届けてくれますので、SA先大学にこのようなサービスがある場合には積極的に利用してください。

③海外でトラブルにあったら

突発事故や災害が発生した時には、日本大使館・総領事館に連絡をとって指示を仰いでください。窃盗、強盗、詐欺などのトラブルにあった場合は、まず警察に被害届を出し、警察からポリスレポート（被害届）の受理書を受け取ってください。これは、その後のパスポート再発行や保険請求に必要となります。

いずれの場合も「危機管理サービス」の指定連絡先へ連絡をすれば手続き等について適切なアドバイスやサポートを受けることができます。

④テロや暴動などの非常事態に関して

現地で戦争・内乱・暴動・テロ行為が発生した際は、まずは外務省の海外安全ホームページ等で正確な危険情報を収集してください。政治的、社会的な状況の悪化や、テロリズム・クーデター等の勃発に伴い、国中が深刻な社会不安に見舞われた際に当事国が非常事態宣言等を発令することがあります。このような場合は、まずは自分自身の安全確保を最優先してください。

■ 健康管理

日本での生活と海外での生活は当然異なります。今までは家族と一緒に生活していて、一人暮らしの経験がない人もいるでしょう。健康にSA生活を送るために、予備知識を持ち、日ごろから注意して生活することが大切です。

〈出発前に準備しておくべきこと〉

- SA先へは、必ず常備薬を持参しましょう。
- 持病がある人は、自分で対処法を十分に理解し、病気の内容やこれまでの経過を説明できるようにしておきましょう。かかりつけのお医者さんに英語で診断書を書いてもらっておくと安心です。
- めがねやコンタクトレンズを使用している場合は、スペアを持参しましょう。
- 歯の治療は、国によっては良い治療を受けられなかったり治療費が高額だったりする場合があります。海外旅行保険などでは原則として歯の治療はカバーしていないので、出発前に必要な治療をしておきましょう。

〈留学中に注意すべきこと〉

- 現地での生活に慣れるまでは、できるだけ睡眠をしっかりとって十分に休養するようにしましょう。
- 規則正しい生活を送りましょう。SA生活を送る中では夜遅くまで勉強することも多いかもしれませんが、毎日規則正しい生活を送る方が勉強の効率もあがります。メリハリのある生活を心がけましょう。
- 身体の調子がおかしいと感じたら、できるだけ早く病院を受診し、治療を受けましょう。大学には診療所や病院がある場合が多いので、早い時期に一度訪れてみてよいかもかもしれません。
- SA先で何かあった時に頼れる相談相手を見つけておきましょう。困った時や悩んだ時は、一人で悩まず友人や知人、SA先大学のスタッフやアドバイザー、カウンセラーに相談しましょう。

〈万が一怪我をしたら／病気になったら〉

- まずは大学の診療所や近隣の病院を受診しましょう。
- どの病院を受診すればよいかわからない場合や、緊急事態が発生した時には、身近な人に助けを求めるとともに、後述の「危機管理サービス」の指定連絡先に電話をし、適切な対応方法をアドバイスしてもらいましょう。
- 病院を受診した際は、必ず「診断書」と「領収書」をもらっておくようにしましょう。後日、海外旅行保険を使って保険金の請求をする際に使用します。また、病院で出された処方箋で薬を購入した場合にはその費用も請求が可能なので、領収書を保存しておくことをおすすめします。

〈感染症が発生した場合〉

新型コロナウイルスなどのような感染症の予防にはマスク着用や手洗いなど、日頃からの危機管理意識が欠かせません。万一感染症を発症した場合や周りに感染者が出た場合には、速やかに現地大学が指定する連絡先に報告するとともに、定められたガイドラインに従って対処するようにして下さい。また、感染症の拡大防止のため、現地政府による外出規制などの特別措置が取られた場合や日本国及び諸外国政府による出入国時の検査や隔離等の措置が定められた場合には、それらを遵守するようにして下さい。

■ 危機管理サービス

SAに行く学生は、本学部が契約している留学生危機管理サービスに自動的に加入することになります。危機管理サービスには、現地での生活サポート、滞在中のトラブル対処、滞在中の緊急対応などが含まれます。

■ 派遣前・派遣中のプログラム中止・延期や帰国勧告について

外務省の海外安全ホームページでは、海外各国の最新の海外危険情報と海外感染症危険情報を以下のように4段階に大別してきめ細かな危険情報を提供しています。本学部では、出発前や留学中に以下の勧告の発出や感染症拡大などの非常事態が発生した場合、出発前の渡航延期、留学中の帰国勧告、その他緊急対応措置を検討する場合があります。留学期間中の連絡はDUETもしくは大学のメールアドレスに送られますので、留学中はこまめにチェックするようにして下さい。

【レベル1：十分注意してください】

【レベル2：不要不急の渡航は止めてください】

【レベル3：渡航は止めてください(渡航中止勧告)】

【レベル4：退避してください。渡航は止めてください(退避勧告)】

- 外務省国・地域別海外安全情報
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/>
- 外務省 海外安全ホームページ
<https://www.anzen.mofa.go.jp/>



パスポートについて

パスポート(旅券)とは、政府ないしそれに相当する公的機関が交付し、国外に渡航する者に国籍およびその他身分に関する事項に証明を与え、外国官憲に保護を依頼する公文書です。つまり、パスポートは国外においては自分の身分を証明する公的で最も通用度の高い身分証明書であり、海外へ渡航する際には必ず取得しなければならないものです。日本の旅券の有効期間は発効日から5年または10年の2種類があり、18歳以上の人はいずれかの旅券を申請できます。申請、交付事務は各都道府県のパスポートセンター(旅券事務所)で取り扱われています。

すべての都道府県においてオンライン申請による新規申請及び切替申請(残存有効期間が1年未満の更新)が可能です。

オンライン申請は、国内ではマイナンバーカードを使ってマイナポータルから行います(国外からはオンライン在留届(ORRネット)経由で申請します)。なお、これまでどおり、窓口で紙の申請書により申請することも可能です。

パスポート申請に必要な書類、手数料や手続方法等の詳細は、申請を予定している都道府県のパスポートセンター(旅券事務所)ホームページで確認してください。

なお、パスポートの発給までには、2週間程度の時間を要するため余裕をもって申請を行ってください。

SAに関する内規

外国の大学に留学する学生の取扱いに関する内規

1983年3月17日 制定

改正 1983年11月10日 1994年5月12日
1998年2月19日 1999年2月18日
2005年3月17日 2006年6月1日
2008年3月13日 2010年1月28日
2010年12月2日 2015年3月12日

(設置)

第1条 本学の学部又は大学院の学生が、本学の教育課程の一環として学則第27条の2、大学院学則第20条の2、専門職大学院学則第29条又は法科大学院学則第15条により留学する場合は、この内規の定めるところによる。

(教育機関の定義)

第2条 この内規にいう外国の大学とは、外国における正規の高等教育機関で学位授与権を有するもの、又はこれに相当する教育機関をいう。

2 外国の大学の調査認定は、学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が行う。

(留学の定義)

第3条 この内規にいう留学とは、本学の許可を受けて外国の大学に在学し、科目を履修し、又は研究指導を受けることをいう。

(条件)

第4条 この内規の適用を受けて留学する学生は、次の要件を満たさなければならない。ただし、大学院学生には適用しない。

(1) 本学に1年以上在学していること。

(2) 30単位以上修得していること。

2 前項第2号は、当該学部教授会の認める特別の事情がある場合には、適用しない。

(学籍)

第5条 この内規の適用を受けて留学する学生の本学学籍上の取扱いは、在学留学とし、休学としない。ただし、学生が休学を認められ、外国の大学で学修する場合は、この内規は適用しない。

(期間)

第6条 在学中に留学できる期間は、1年以内とする。在学留学期間の算定は、留学先大学の別にかかわらず、当該教育課程における在学留学期間の通算にて行う。

◎外務省ホームページ(パスポート(旅券))

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/

◎近隣のパスポートセンター(旅券事務所)ホームページ

京都府… https://www.pref.kyoto.jp/passport/index.html

大阪府… https://www.pref.osaka.lg.jp/o070140/passport/top/index.html

兵庫県… https://www.hyogo-passport.jp/

奈良県… https://www.pref.nara.jp/18114.htm

滋賀県… https://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/gaiyou/soshiki/300696.html

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会の認める特別の事情がある場合は、1年間を限度として、在学留学期間の延長を許可する。

(履修)

第7条 留学する大学での履修については、留学前に留学する大学の授業科目を検討した上、当該学部又は研究科の指導を受けなければならない。

(学生納付金)

第8条 この内規の適用を受けて留学する学生は、留学中所定の学生納付金を納入しなければならない。

(手続)

第9条 外国の大学に留学する学生で、この内規の適用を希望する場合は、在学留学願を当該学部長又は研究科長を通じて学長に提出するものとする。

2 出発・帰国に際しては、留学出発・帰国届を当該学部長又は研究科長を経て、学長に提出しなければならない。

3 在学留学期間の延長を願い出る場合は、在学留学延長願を当該学部長又は研究科長を通じて、学長に提出するものとする。

(単位認定)

第10条 単位認定を受けようとする者は、帰国後速やかに、次に掲げる必要書類(留学した大学の発行するもの)を添付した取得単位認定願を、当該学部長又は研究科長に提出するものとする。

- (1) 成績証明書(時間数、単位数、科目名を明記したもの)
- (2) 指導教員又はこれに準ずる教員の所見を記したもの
- (3) 受講した科目の内容を説明した教授細目
- (4) 大学履修要項

2 当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会は、関係機関と協議の上審議し、留学した大学での取得単位を学則の定めるところにより認定することができる。

(帰国後の登録及び履修)

第11条 留学した学生の帰国直後の春学期又は秋学期における登録及び履修については、当該学部教授会、研究科教授会又は研究科委員会が出国時までの履修状況等を勘案し、特別の措置を講ずることがある。なお、設置科目によっては関係機関との協議を必要とする。

(事務)

第12条 この内規に関する事務は、国際連携推進機構国際センター国際課が取り扱う。

(改廃)

第13条 この内規の改廃は、教務〔国際〕主任会議及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

誓約書

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 Study Abroadに関する誓約書・確認書

グローバル・コミュニケーション学部 学部長

私は、同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 Study Abroad プログラム(以下、SAという)により在学留学するにあたり、下記の事項を遵守するとともに誠実に履行することを誓約します。なお、誓約・確認事項に反した場合は、在学留学の資格を取り消される場合があること、並びに、SA先大学で取得した単位が認定されない場合があることを承諾し、異議を申し立てません。

記

1. SA先大学決定後は同志社大学グローバル・コミュニケーション学部(以下、本学部という)が正当かつやむを得ないと認める理由以外による辞退はできないこと。
2. SAの趣旨を十分理解し、SA先大学にて学業に専念すること。
3. SA期間中はSA先大学の学年暦に従い、本学部が認めたSA期間を遵守すること。やむを得ない理由によりSAを継続することに支障が生じた場合は、速やかに本学部に相談すること。
4. やむを得ない理由により一時帰国をする場合は、事前に本学部に連絡すること。また、再入国に際して必要な手続きなどがある場合は、学生本人が責任を持って行うこと。
5. SA先大学休暇期間中などの個人的な旅行等は、自身で責任を持つこと。また、その行き先を所定連絡先に届け出ること。
6. SA期間中は、大学毎に定められた寮またはホームステイ先に滞在すること。大学毎に定められた範囲内で、寮またはホームステイ先に変更が生じた場合は、逐次速やかに所定連絡先へ連絡すること。
7. SA先大学が所在する国(地域)の治安の悪化・災害や感染症の発生状況によっては、同志社大学(以下、本学という)がSAの中止または帰国勧告等を決定することがあるので、これらの事態等が生じる可能性を理解し、本学の指示に速やかに従うこと。また、SA先大学の責により当初予定していた費用、計画、日程等に変更が生じることがある。これらの直接本学の責に帰さない事態により発生した損害・負担について本学に一切請求を行わないこと。
8. SA期間中は、本学の学生としての自覚と責任において行動すること。また、SA期間中、災害、暴動、テロ、事故、感染症、疾病、犯罪などにより生じた直接本学の責に帰さない損害について、本学に一切責任を問わないこと。感染症等の拡大防止のため、日本国及び諸外国政府が検査や隔離等の出入国管理措置を定めた場合には、それを遵守すること。また、その際に追加で発生する費用負担についても了承すること。
9. SA期間中は、滞在国の法令、本学の学則等諸規則を遵守するとともに、SA先大学の定める規則、指導教員、担当者等の指示に従うこと。さらには、滞在国の公序良俗に反することのないよう注意すること。また、日本で禁止されている薬物についても絶対に使用しないこと。
10. SA期間中は、自動車(自動二輪車・電動二輪車含む)の運転を行わないこと。
11. SA参加にあたっては、必ず本学部指定の飛行機で渡航・帰国すること。やむを得ない理由により変更する場合は速やかに所定連絡先へ連絡すること。なお、変更承認後の行動によって生じる一切について自己責任であることを了承すること。
12. SAに際しては、原則として、出発から帰国まで本学部指定の海外旅行傷害保険、SA先大学指定の健康保険に加入すること。
13. SA期間中は、本学部への現地到着報告、近況報告等を行い、帰国後は速やかに指定された報告書・アンケート等を提出し、報告会等での報告をすること。
14. SAの運営や緊急時の対応のためにかぎり、本学部へ届け出た学生本人および保証人の個人情報を本学部、SA先大学、SA取扱業者が利用することに同意すること。
15. SAの運営、学生の安全確保、SA期間中の学修状況確認等のために、SA先大学で取得した学業成績や研修中の生活情報等の個人情報を本学部に提供することに同意すること。また、これらの情報を必要に応じて本学部、SA先大学、SA取扱業者が共有することに同意すること。
16. 特別な配慮を必要とする疾病がある場合は、出発前に本学部へ申し出ること。
17. 本学部がSA修了の判断、並びに、SA先大学で取得した単位の認定を実施するには、SA期間に発生した追加の授業料を含む全ての費用の完納を要することを承諾すること。なお、費用は為替レートの変動、学生の履修計画の変更等の諸事情により変動することを理解し、納入済みのSA費用に不足が生じた場合はその追加の支払いに速やかに応じること。

上記誓約事項を遵守することを誓約します。 年 月 日

学生 ID _____

学生署名 _____ 印

学生本人が上記誓約事項を遵守することを保証します。

保証人署名 _____ 印

(学生との関係: _____)

以上

- SAIに発する前に、「同志社大学グローバル・コミュニケーション学部 Study Abroadに関する誓約書・確認書」を配布します。重要なことが記載されていますので、熟読し、内容をよく確認してください。本人および保証人が署名の上、提出が必要です。
- SA期間中の帰国は原則として認められません。但し、特別な事情により日本へ一時帰国する場合には、「一時帰国届」の提出が必要です。

大学からの重要なお知らせは、随時DUETと大学が発行したアドレスへのE-mailで通知します。必ず定期的に確認するよう、習慣づけてください。

同志社大学 グローバル・コミュニケーション学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
TEL : 0774-65-7491 E-mail : jt-gcjm@mail.doshisha.ac.jp